

3. 調査結果（対象者アンケート結果）

（1）保護者向け調査結果

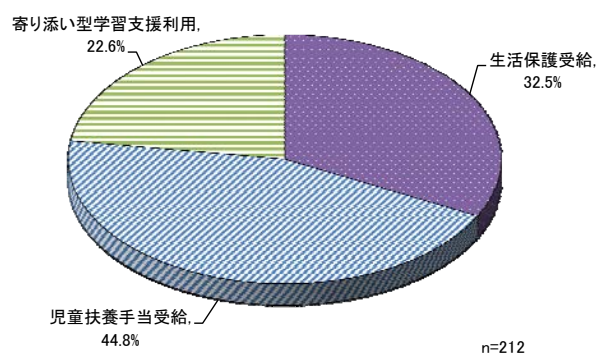
①調査対象種類別の回答状況

保護者向け調査は、生活保護、児童扶養手当、寄り添い型学習等支援事業の利用者に対して、下表の方法により配布し、合わせて212件の回答があった。

なお、全体のうち、生活保護事業からの回答は32.5%、児童扶養手当事業からの回答は44.8%、寄り添い型学習等支援事業からの回答は22.6%となっている（図表1-1-1）。

利用事業	対象者の属性	配付方法等
生活保護	未就学～18歳未満の子どもがいる世帯	市から郵送にて送付
児童扶養手当	未就学～18歳未満の子どもがいる世帯	区のこども家庭支援課窓口にて配付
寄り添い型学習等支援事業	全利用者	利用施設を通じて配付

図表 1-1-1 調査対象種類



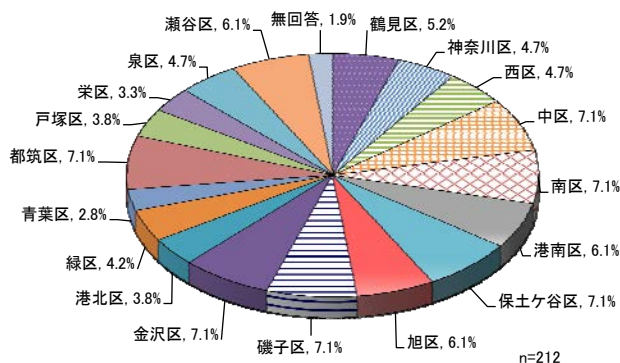
②回答者の属性

回答者の居住地区については、市内の18区すべてから回答されている（図表 1-2-1）。

調査の回答者は94.8%が「母親」となっており（図表 1-2-2）、約9割が「ひとり親世帯に該当する」と回答している（図表 1-2-3）。なお、「離婚」によるひとり親が78.3%で最も多くなっている。

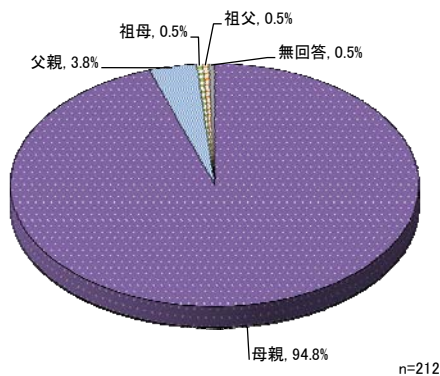
設問 現在のお住まいの地区について教えてください（問 19）

図表 1-2-1 居住地区



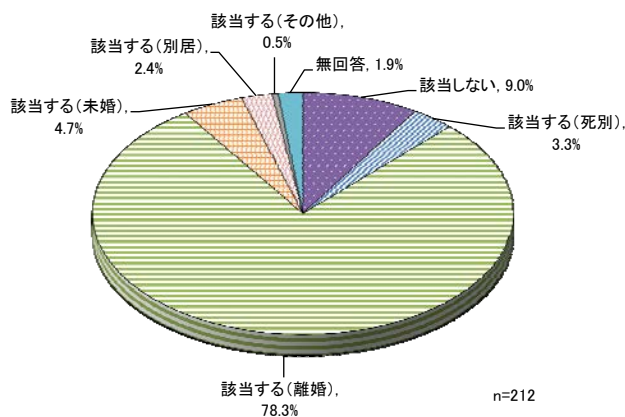
設問 この調査に回答いただいている方の、子どもからみた続柄について教えてください（問 1）

図表 1-2-2 調査回答者属性



設問 あなたの世帯は「ひとり親世帯」に該当しますか（問 4）

図表 1-2-3 ひとり親世帯の該当の有無



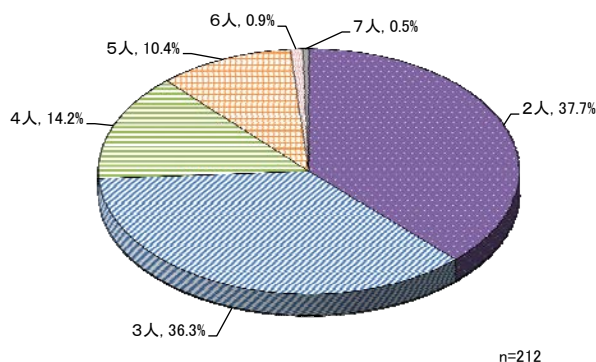
③世帯構成

世帯員人数は、「2人」が37.7%、「3人」が36.3%、「4人」が14.2%、5人以上が11.8%となっている（図表 1-3-1）。世帯に含まれる子どもの数（同居している子どもの数）は、「1人」が最も多く46.7%、「2人」が38.7%、3人以上の多子世帯は合わせて14.1%となっている（図表 1-3-2）。

子どもの年齢段階に関しては、「小学校入学前」の子どもがいる世帯が19.3%、「小学生」のいる世帯は42.0%、「中学生」のいる世帯は42.9%、「高校生」のいる世帯は33.5%となっている（図表 1-3-3）。

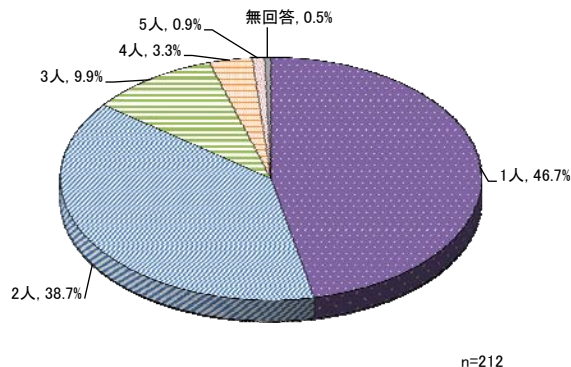
設問 普段一緒にお住まいで、生計を共にしている方は、あなたを含めて何人ですか（問2）

図表 1-3-1 世帯員人数

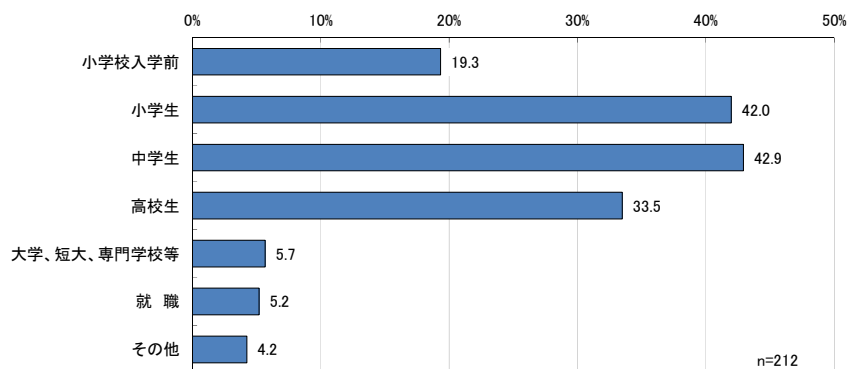


設問 あなたの世帯に含まれる方全員について、人数を教えてください（問3）

図表 1-3-2 世帯に含まれる子どもの人数



図表 1-3-3 各年齢段階の子どものいる世帯の割合



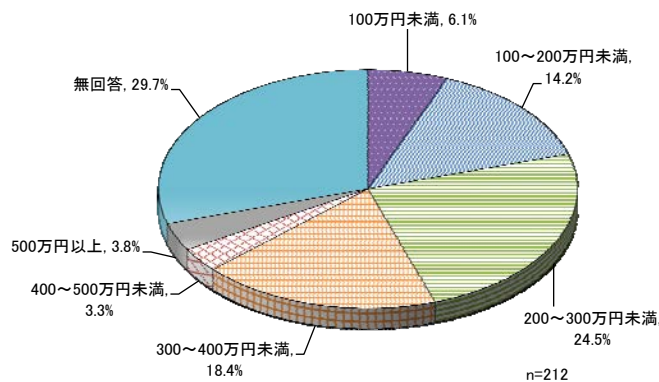
④世帯の経済状況

昨年1年間（平成26年1月1日～12月31日）の世帯所得は、「200～300万円未満」との回答が最も多く、24.5%となっている（図表1-4-1）。なお、全体の29.7%が無回答となっており、その点には留意が必要であるが、大半の世帯が400万円未満となっていることがわかる。

所得に含まれる手当についてたずねたところ、75.9%が「児童扶養手当」を受給しており、50.5%は「生活保護」を受給している（図表1-4-2）。全体として約9割がひとり親世帯に該当するため、ひとり親世帯に限定してみても同様の傾向にあるが、児童扶養手当を受給している割合は79.9%、生活保護を受給している割合は50.3%、元配偶者からの養育費を受け取っているのは16.9%となっている。

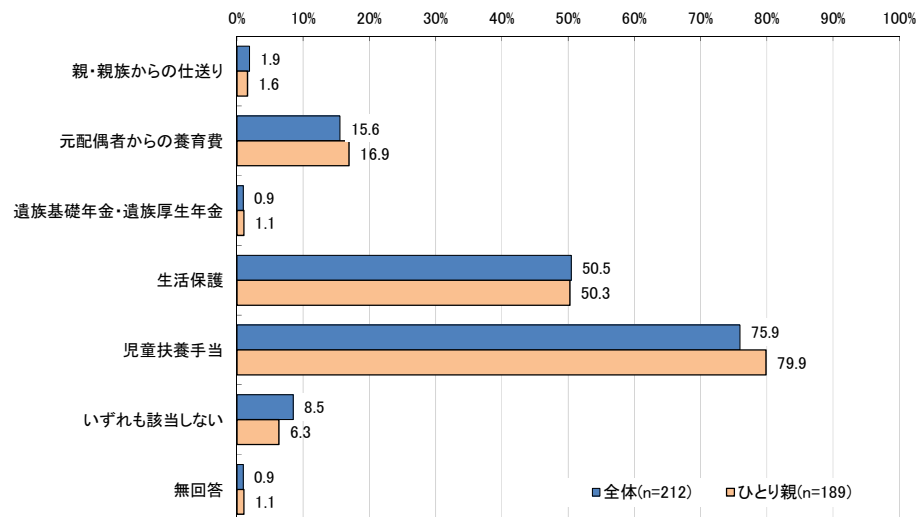
設問 あなたの世帯の昨年1年間（平成26年1月1日～12月31日の期間）の所得の合計はいくらですか（問23）

図表 1-4-1 昨年1年間の世帯所得



設問 あなたの世帯では、昨年1年間（平成26年1月1日～12月31日の期間）で、次のような形での所得はありますか（問22・複数回答）

図表 1-4-2 昨年1年間の所得に含まれる手当等



⑤住まい、暮らしの状況

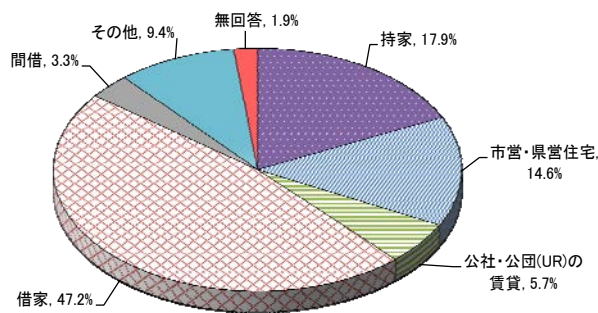
住居の状況については、民間の「借家」が47.2%で最も多く、次いで「持家」が17.9%となっている。また、「市営・県営住宅」は14.6%と3番目に多くなっている（図表1-5-1）。

現在の暮らしの状況に対する認識としては、「大変苦しい」と回答した割合が27.4%となっており、「大変苦しい」と「やや苦しい」をあわせると69.4%となっている（図表1-5-2）。「大変ゆとりがある」との回答は0%（0件）で、「ややゆとりがある」が2.4%であり、この回答結果からも、全体として生活が苦しい状況にある人が多いことがわかる。

なお、住居の状況別に、暮らしの状況として「大変苦しい」と「やや苦しい」と回答した割合を比較すると、「持家」では68.4%、「市営・県営住宅、公社・公団(UR)の賃貸」では60.5%、「借家」では75.0%となっており、住居の状況別に若干の違いがあることがわかる（図表1-5-3）。

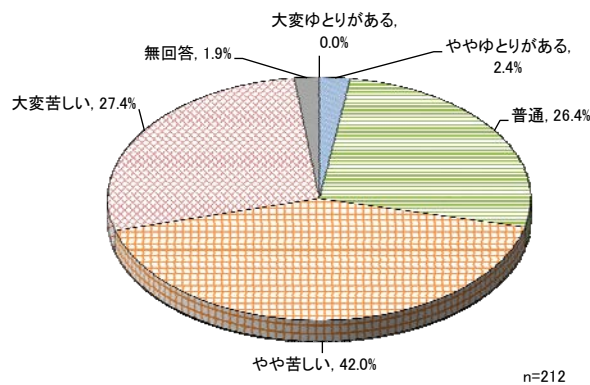
設問 現在の住居の状況について教えてください（問20）

図表 1-5-1 住居の状況

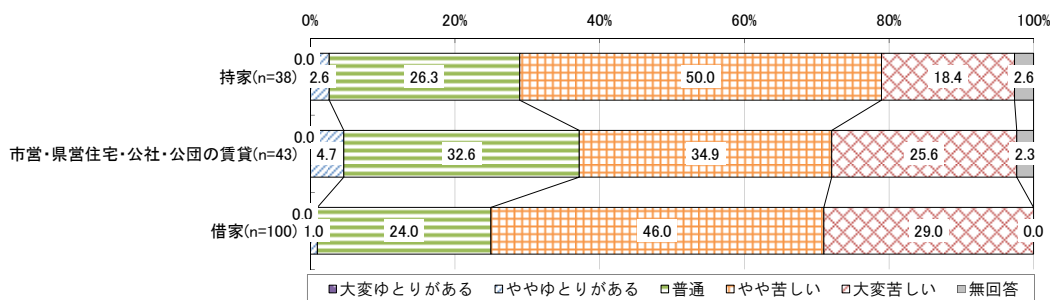


設問 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか（問21）

図表 1-5-2 暮らし向きに関する認識



図表 1-5-3 住居の状況別の暮らし向きに関する認識



※「市営・県営住宅」と「公社・公団の賃貸」をあわせて集計した。「間借」と「その他」は、集計度数が比較的小さいことから、ここでは非掲載とした。

⑥健康状態

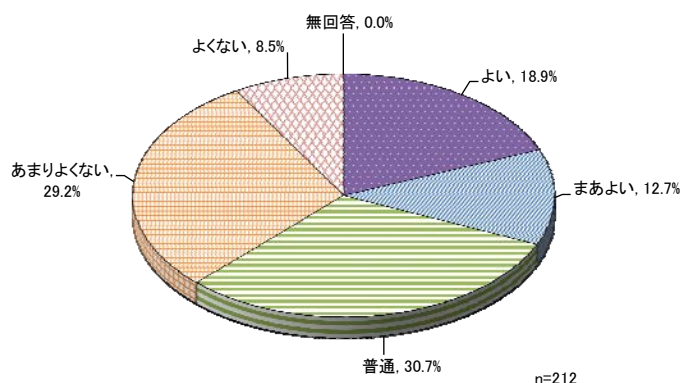
回答者本人の現在の健康状態についてたずねたところ、「普通」との回答が最も多く、30.7%となっているが、「よくない」「あまりよくない」との回答も多く、その割合は合わせて37.7%となっている（図表 1-6-1）。

また、過去1年間で病気や障害等による入院等の経験の有無についてたずねたところ、42.5%が「なかなか眠れないことがあった」、34.9%が「気分がひどく落ち込んでいた」と回答している。また、「病気・障害等が原因で仕事をやめた」と回答した割合は10.8%にのぼっている（図表 1-6-2）。

なお、病名や障害の種類についてもたずねたところ、「うつ病」や「子宮筋腫の手術」等の回答が比較的多く見られた。また、複数の病気や障害等を抱えている方も比較的多くなっていた。

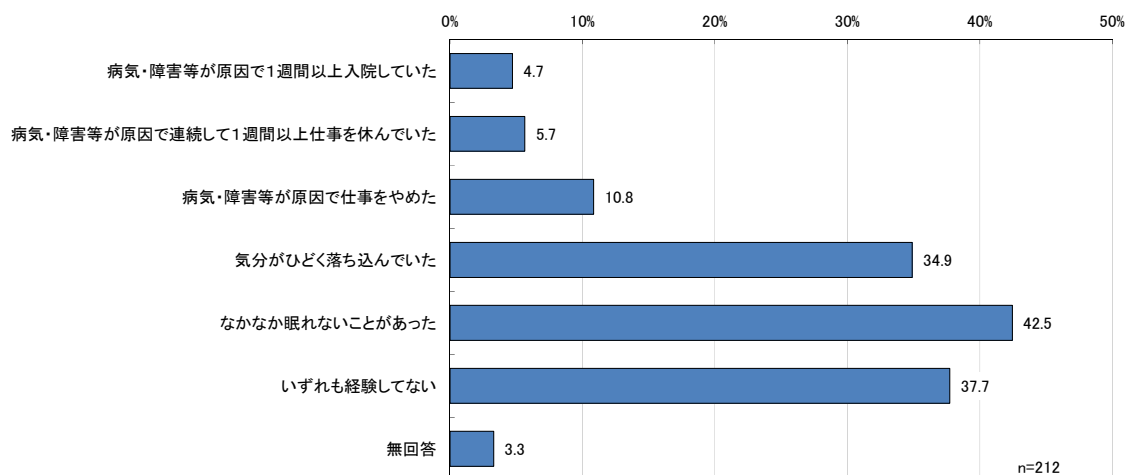
設問 現在の健康状態はいかがですか（問5）

図表 1-6-1 現在の健康状態



設問 過去1年間で、病気・障害等に関する次のような経験がありますか（問7・複数回答）

図表 1-6-2 過去1年間の病気・障害等の状況



⑦収入を伴う仕事の有無

複数の仕事をしている場合も含め、現在就業を「している」と回答したのは68.8%で、就業を「していない」と回答したのは29.2%であった。なお、複数の仕事をしているのは6.1%となっている（図表1-7-1）。

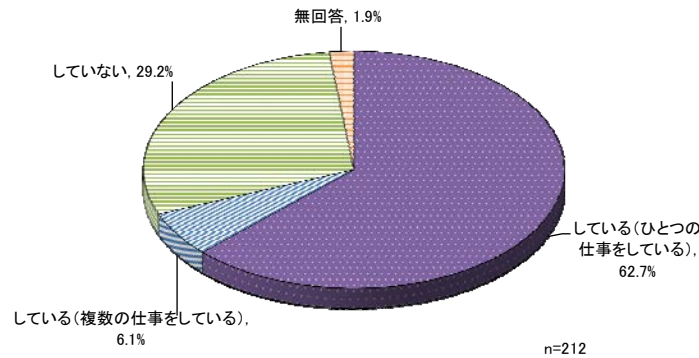
生活保護を受給していると回答した方の就業状況についてみると、複数の仕事をしている場合も含め、就業「している」との回答が49.5%、「していない」が46.7%となっており、生活保護受給者では就業をしていない人の割合が比較的高くなっていることがわかる（図表1-7-2）。

また、現在の健康状態別の就業状況を見ると、「よくない」と回答した人の約9割、「あまりよくない」と回答した人の4割超が、仕事を「していない」と回答している（図表1-7-3）。このことから、病気等の健康上の問題が理由で働くことができない人もいることがうかがえる。

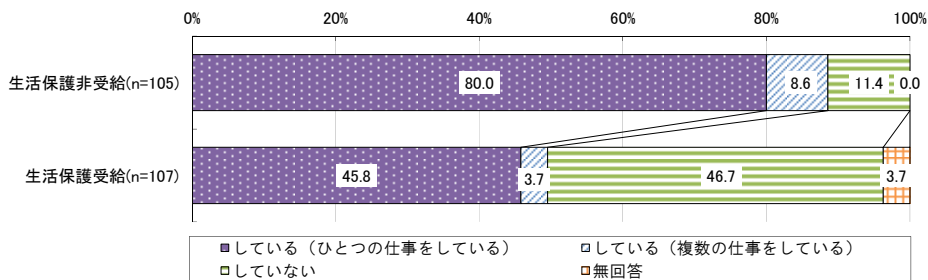
なお、就業している方の就業形態についてみると、「パート・アルバイト」が最も多く53.4%で、次いで「正社員・正規職員」が24.0%となっている（図表1-7-4）。

設問 現在収入をともなう仕事をしていますか（問6）

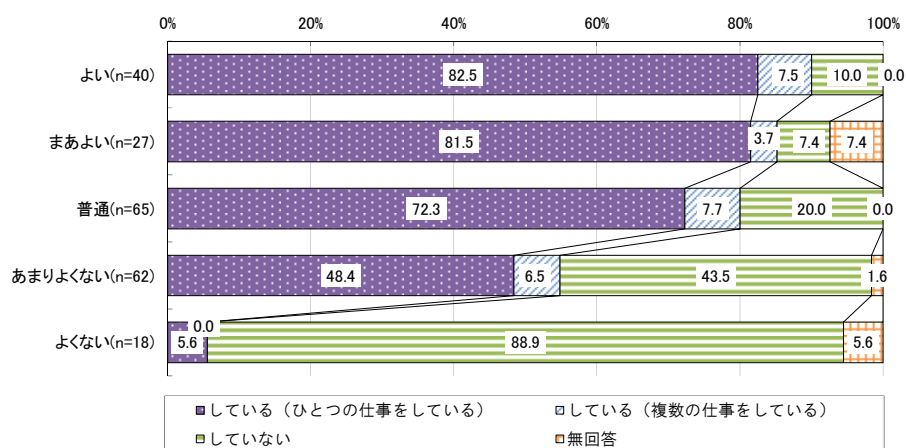
図表 1-7-1 現在の就業の状況



図表 1-7-2 生活保護の受給の有無別の現在の就業の状況

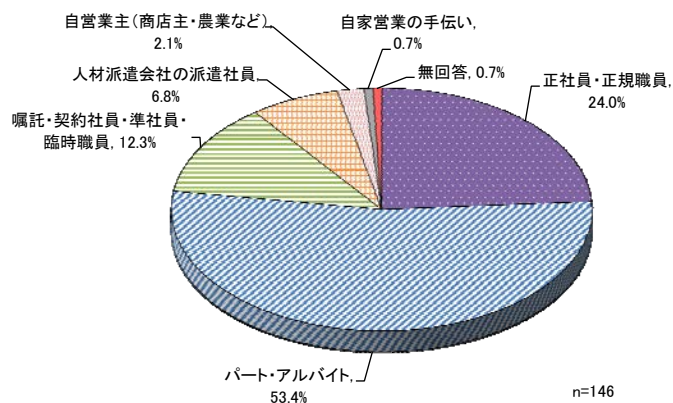


図表 1-7-3 現在の健康状態と就業状況



設問 【問6で「している」と回答した人のみ】現在の仕事の就業形態は次のどれにあてはまりますか (問6-1-1)

図表 1-7-4 就業形態



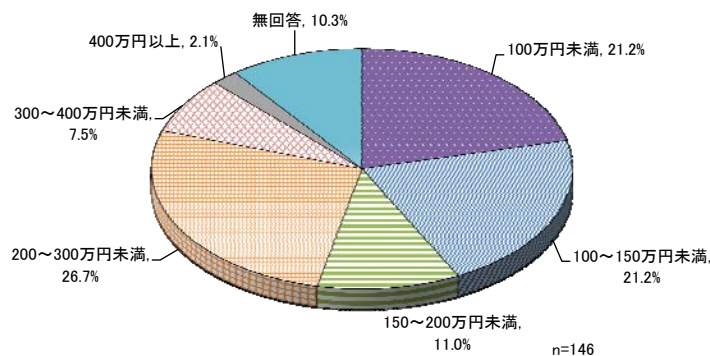
⑧就業による所得

就業している方の1年間の就労所得は、「200～300万円未満」が最も多く、26.7%となっている（図表 1-8-1）。次いで多いのは「100～150万円未満」ならびに「100万円未満」で21.2%となっており、300万円未満の回答を合計すると約8割が該当する状況となっている。

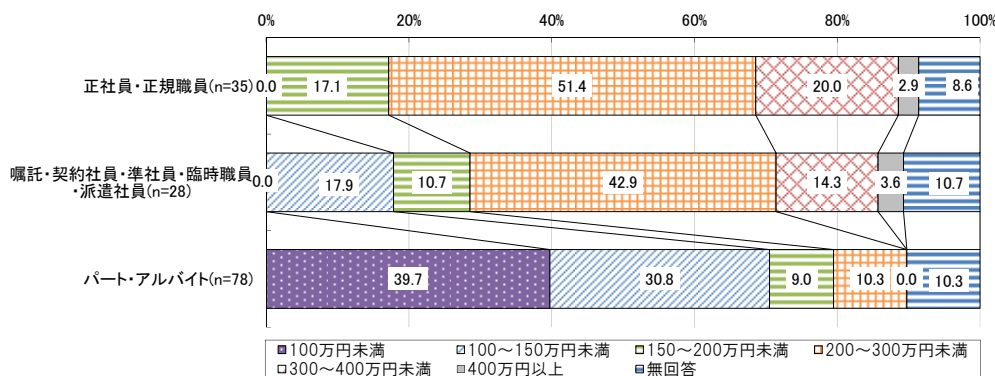
就業形態別に1年間の就労所得をみると、「正社員・正規職員」は「200～300万円未満」が最も多く51.4%、次いで「300～400万円未満」が20.0%となっている（図表 1-8-2）。なお、就労所得が150万円未満の回答は得られなかった。「嘱託・契約社員・準社員・臨時職員・派遣社員」については、「200～300万円未満」が最も多く42.9%、次いで「100～150万円未満」が17.9%となっている。他方で、「パート・アルバイト」では、「100万円未満」が最も多く39.7%、次いで「100～150万円未満」が30.8%となっている。

設問 【問6で「している」と回答した人のみ】現在の仕事からの年間の所得（税込み、賞与も含む）は大体いくらぐらいですか（問6-1-2）

図表 1-8-1 就業による所得



図表 1-8-2 就業形態別の就業による所得



※「嘱託・契約社員・準社員・臨時職員」と「人材派遣会社の派遣社員」をあわせて集計した。「自営業種」と「自家営業の手伝い」は、集計度数が比較的少ないことから、ここでは非掲載とした。

⑨就業意向、就業できない理由

現在就業していない人に関して、働く意向があるかをたずねたところ、12.9%が「今すぐに働きたい」、74.2%が「今は働けないがそのうち働きたい」と回答している（図表 1-9-1）。

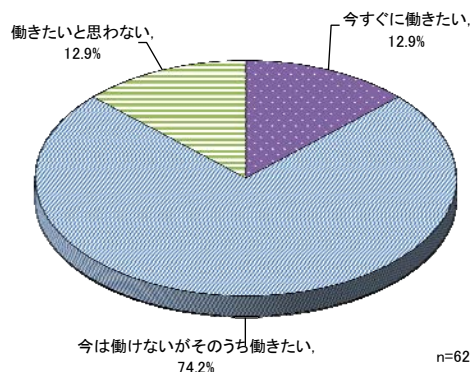
また、「今すぐに働きたい」と回答した方に対して働いていない理由をたずねたところ、「時間について条件のあう仕事がない」が最も多く 62.5%となっている（図表 1-9-2）。（なお、集計対象の件数が 8 件である点には留意が必要である。）

「今は働けないがそのうち働きたい」と回答した方については、どのような状況になれば働きたいと思うかをたずねたところ、78.3%が「自分の問題（健康など）が解決したら」と回答している（図表 1-9-3）。

なお、この点について、健康状態が「よくない」「あまりよくない」と回答した方についてみると、91.7%が「自分の問題（健康など）が解決したら」働きたいと回答しており、病気等の健康上の問題が理由で働けない人がいることをあらためて確認することができる（図表 1-9-4）。

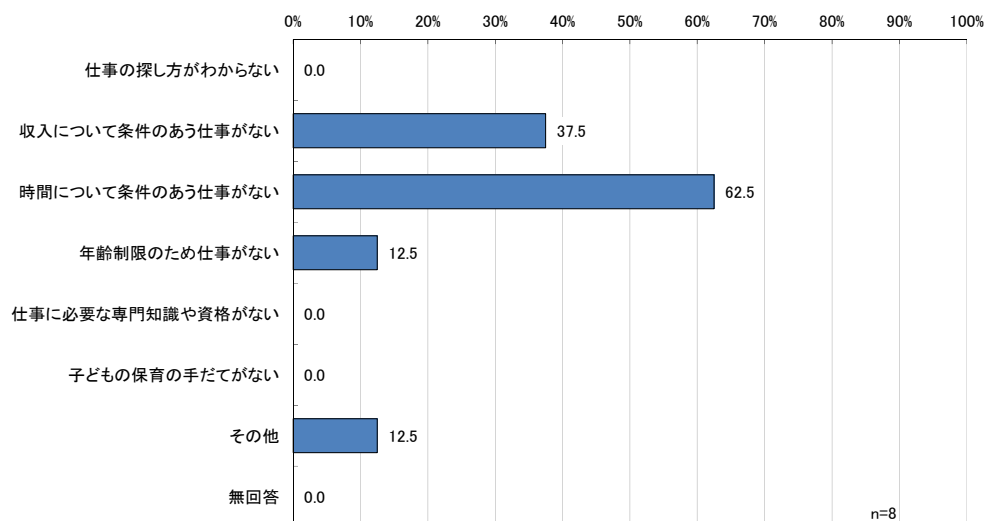
設問 【問 6 で「していない」と回答した人のみ】現在働きたいと思っっていますか（問 6-2-1）

図表 1-9-1 現在の就業意向



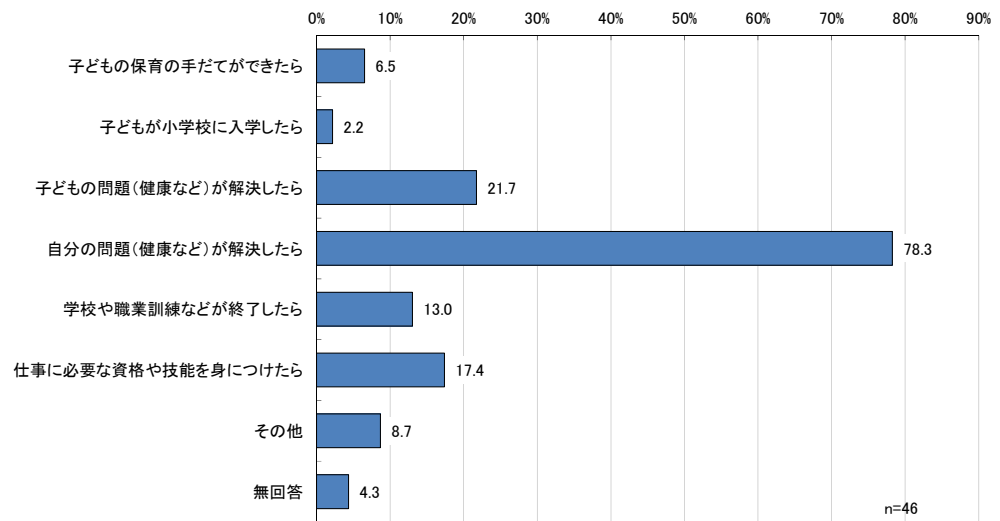
設問 【問 6-2-1 で「今すぐに働きたい」と回答した人のみ】今すぐ働きたいと思われているのに、働いていない理由は何ですか（問 6-2-2・複数回答）

図表 1-9-2 今すぐ働きたいのに働いていない理由

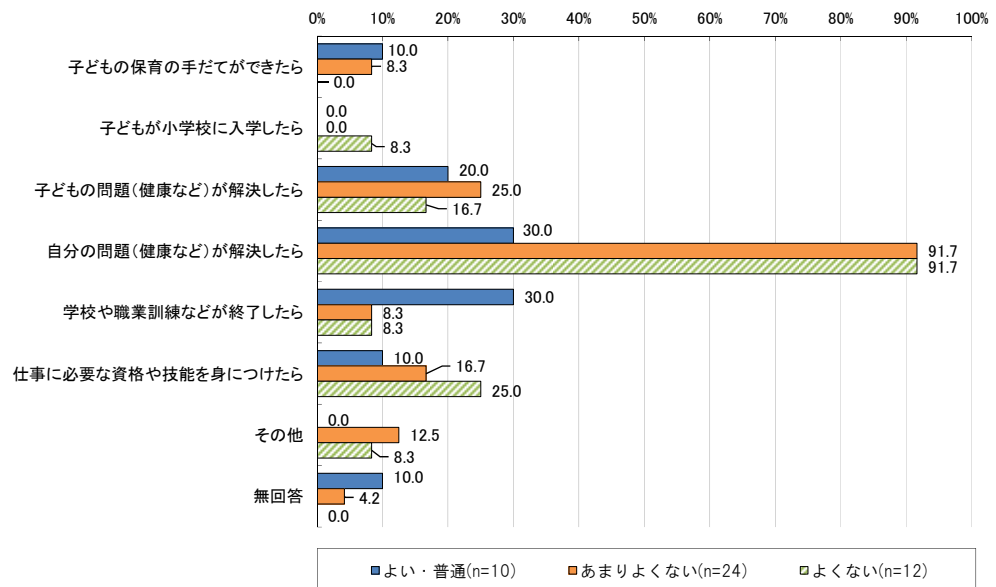


設問 【問 6-2-1 で「今は働けないがそのうち働きたい」と回答した人のみ】どのような状況になれば働きたいと思いますか（問 6-2-3・複数回答）

図表 1-9-3 「今は働けないがそのうち働きたい」と考えている人が働くための条件



図表 1-9-4 健康状態別「今は働けないがそのうち働きたい」と考えている人が働くための条件



※健康状態について「よい」「普通」をあわせて集計した。なお、この設問について健康状態が「まあよい」との回答した人で該当する人は0件であった。

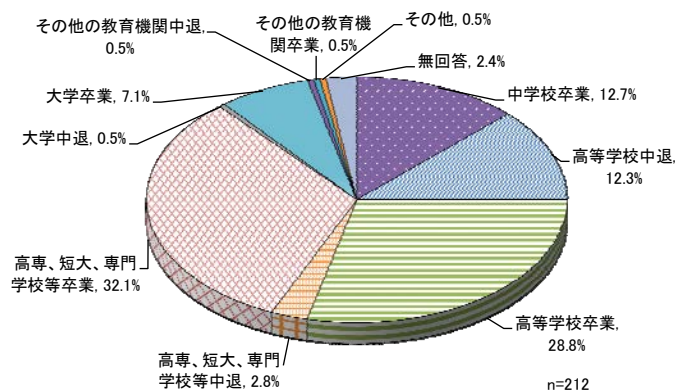
⑩学歴と就業の困難性との関係性

保護者（回答者）の最終学歴として、「中学校卒業」あるいは「高等学校中退」と回答した割合は合わせて25.0%となっている（図表 1-10-1）。なお、「大学卒業」は7.1%である。

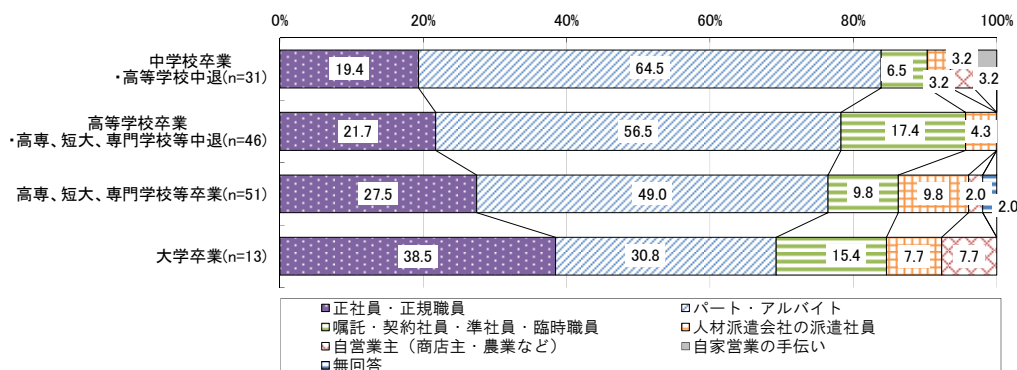
最終学歴と就業の状況との関係を見ると、「正社員・正規職員」と回答した割合は学歴が高くなるにつれて上昇し、「パート・アルバイト」と回答した割合は学歴が高くなるにつれて減少する傾向がみられる（図表 1-10-2）。また、最終学歴と就業所得との関係について、就業所得が300万円未満の割合に着目すると、「大学卒業」では46.2%であるのに対し、「中学校卒業・高等学校中退」では80.6%、「高等学校卒業・高専、短大、専門学校等中退」は93.6%など、学歴による差がみられる（図表 1-10-3）。

設問 あなたの最終学歴は以下のうちどれですか（問 10）

図表 1-10-1 保護者の最終学歴

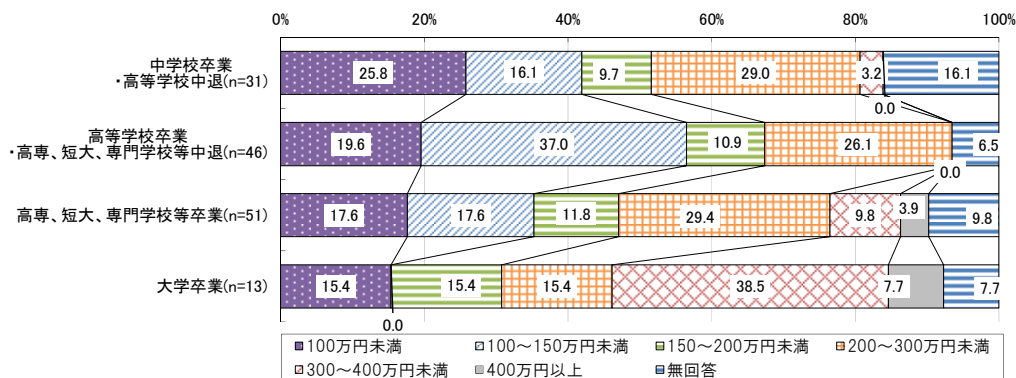


図表 1-10-2 最終学歴と就業の状況



※「中学校卒業」と「高等学校中退」、「高等学校卒業」と「高専、短大、専門学校等中退」をそれぞれあわせて集計した。「その他の教育機関卒業」「その他」は、集計度数が比較的小さいことから、ここでは非掲載とした。

図表 1-10-3 最終学歴と1年間の就業所得



※「中学校卒業」と「高等学校中退」、「高等学校卒業」と「高専、短大、専門学校等中退」をそれぞれあわせて集計した。「その他の教育機関卒業」「その他」は、集計度数が比較的小さいことから、ここでは非掲載とした。

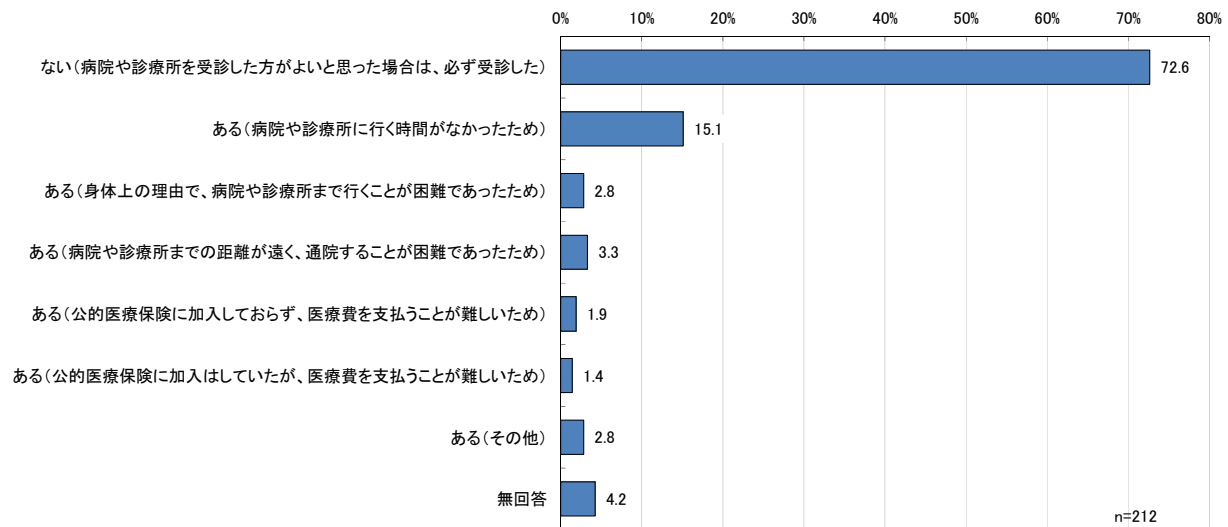
⑪剥奪等の状況

過去1年間に子どもが病気やケガをしたときに病院を受診しなかったことが「ある」と回答した割合は、回答者全体のうち23.2%であった（「ない」と「無回答」以外でいずれかの理由により「ある」と回答した割合、図表1-11-1）。受診しなかった理由で最も多くみられたのは、「病院や診療所に行く時間がなかったため」で、全体の15.1%を占めている。

また、過去1年間に子どもが必要とする文具や教材が買えないことがあったか否かについては、「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合が37.3%となっており、回答世帯の約3分の1でそのような状況が生じていることがわかる（図表1-11-2）。

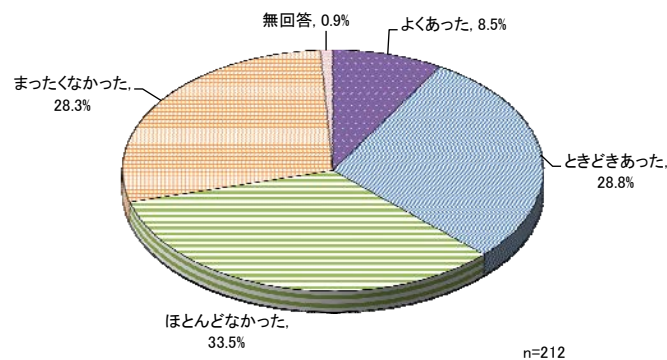
設問 過去1年間に、子どもが病気や怪我の治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったが、受診しなかったことがありますか（問15・複数回答）

図表 1-11-1 病院へのアクセス



設問 過去1年間に、お金が足りなくて、子どもが必要とする文具や教材が買えないことがありましたか（問13）

図表 1-11-2 文具や教材の購入



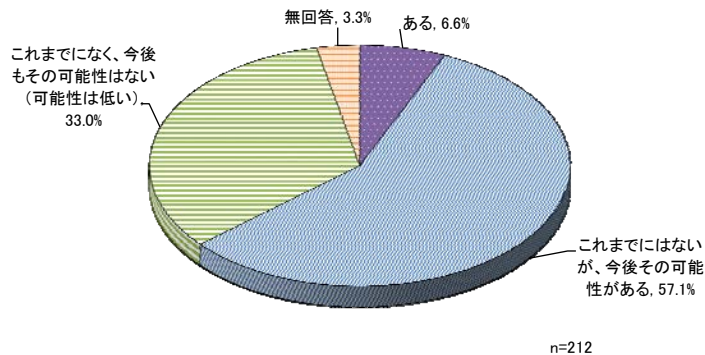
⑫子どもの学習・進学に関わる状況

経済的な理由により、子どもに進学を諦めさせたり学校を中退させたりしたことがあるかという質問に、6.6%が「ある」、57.1%が「これまでにはないが、今後その可能性がある」と回答している（図表 1-12-1）。このことから、成績等要件は満たしていても大学等に進学ができないという状況も比較的多くの世帯で起こりうることがうかがえる。

なお、子どもの習い事について聞いたところ、「特に行っていない」は 45.8%となっている（図表 1-12-2）。習い事をしている中では「学習塾」が最も多く 28.3%となっている。

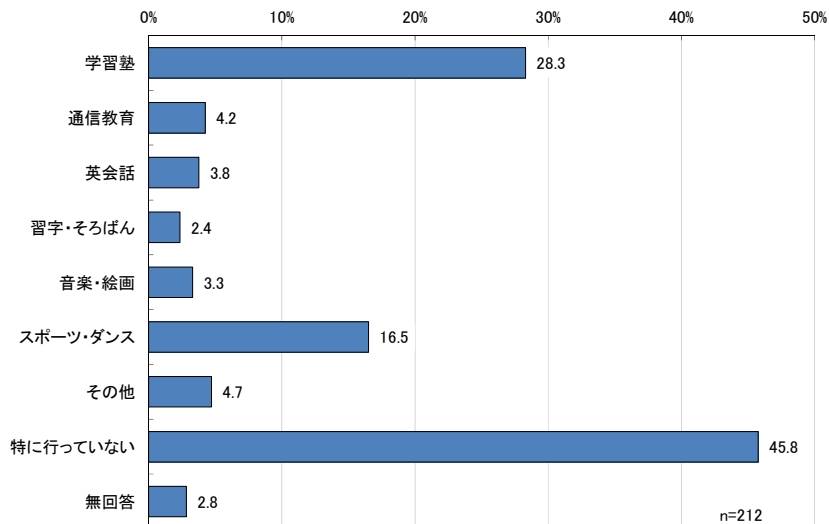
設問 経済的な理由により、子どもに進学を諦めさせたり学校を中退させたりしたことはありますか（問 14）

図表 1-12-1 経済的な理由による進学断念・中退



設問 子どもは、現在習い事等をしていますか（問 16・複数回答）

図表 1-12-2 子どもの習い事



※なお、寄り添い型学習支援事業を利用している場合に、「学習塾」と回答している割合が他の場合と比べて高くなっている

⑬「孤立」等の状況

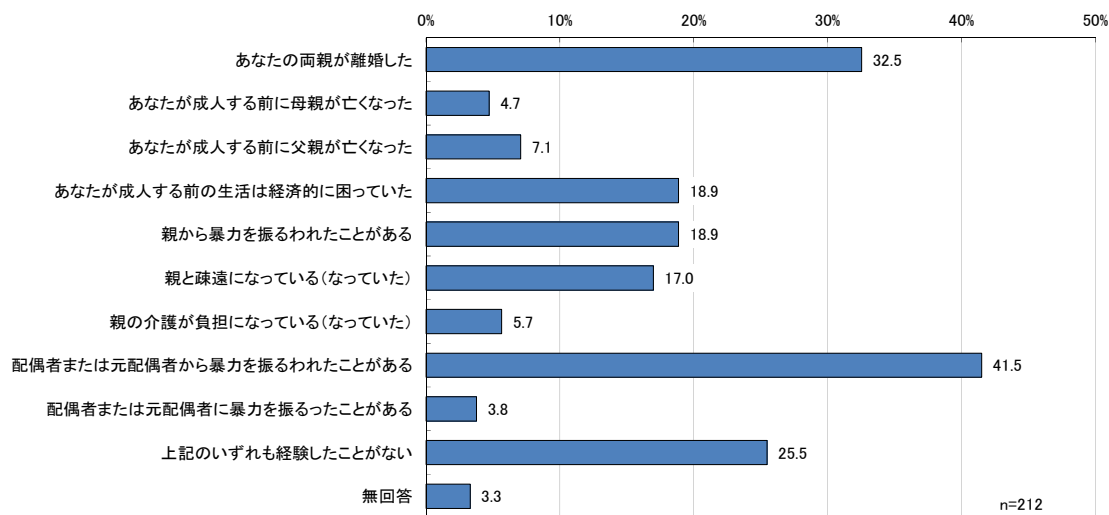
保護者（回答者）の経験として、「配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある」は41.5%、「親から暴力を振るわれたことがある」は18.9%が「ある」と回答している（図表 1-13-1）。

また、「あなたの両親が離婚した」は32.5%と比較的高くなっている。なお別途集計をしたところ、「あなたが成人する前の生活は経済的に困っていた」と回答した人のうち、「あなたの両親が離婚した」を重複して選択回答した割合は57.5%となっていた。これらのことから、「ひとり親世帯に育ち経済的に困窮する」という経験が、世代間で連鎖している状況にあるのではないかと推察される。

このほか、過去一年で生じた変化として、「横浜市内での転居」が13.2%、「転職」が15.1%となっており、これら、転居、離職、転職、離婚など、精神的負担の大きなライフイベントのいずれかを回答した割合は31.1%となっている（「いずれも該当しない」と「無回答」以外でいずれかについて回答があった割合、図表 1-13-2）。

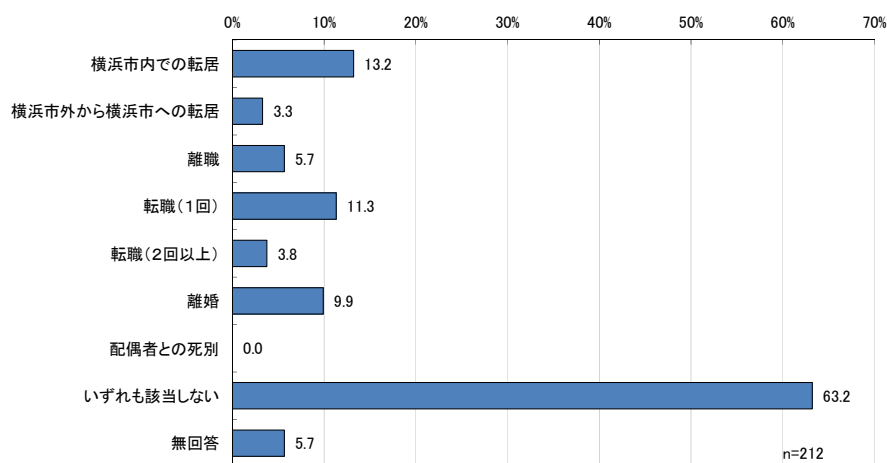
設問 以下のような経験をしたことがありますか（問9・複数回答）

図表 1-13-1 保護者自身の親との関係性



設問 過去1年間に次のようなことを経験しましたか（問8・複数回答）

図表 1-13-2 過去1年間で生じた変化



⑭相談相手の有無

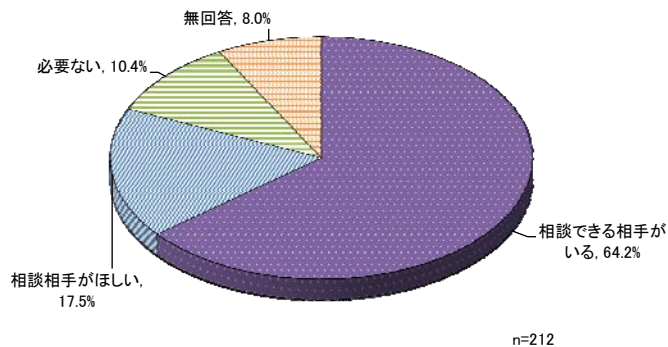
保護者（回答者）に心おきなく相談できる相手がいるかについて聞いたところ、「相談できる相手がいる」との回答が64.2%と最も多くなっているが、他方で、「相談相手がほしい」は17.5%、「必要ない」は10.4%となっている（図表 1-14-1）。

なお、「相談できる相手がいる」と回答した方の相談相手は、「友人・知人」が最も多く67.6%、次いで「親・親族」が48.5%、「子ども」22.1%の順で、身近な人が相談相手となっている（図表 1-14-2）。

「相談相手がほしい」と回答した方の相談したい相手としては、「友人・知人」が最も多く51.4%、次いで「カウンセラーなどの専門家」が43.2%、「区役所など公的機関」が32.4%の順になっている。

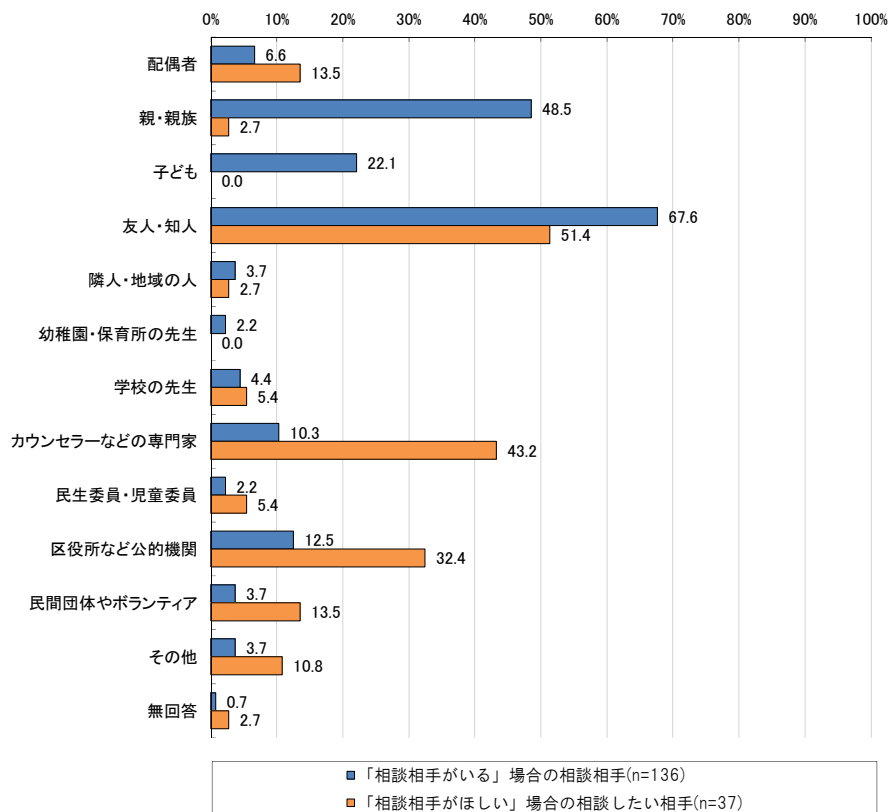
設問 現在心おきなく相談できる相手はいますか（問 11）

図表 1-14-1 相談相手の有無



設問 【問 11 で「相談できる相手がいる」または「相談相手がほしい」と回答した人】相談相手は誰ですか、また相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思いますか（問 11-1・複数回答）

図表 1-14-2 相談相手・相談したい相手



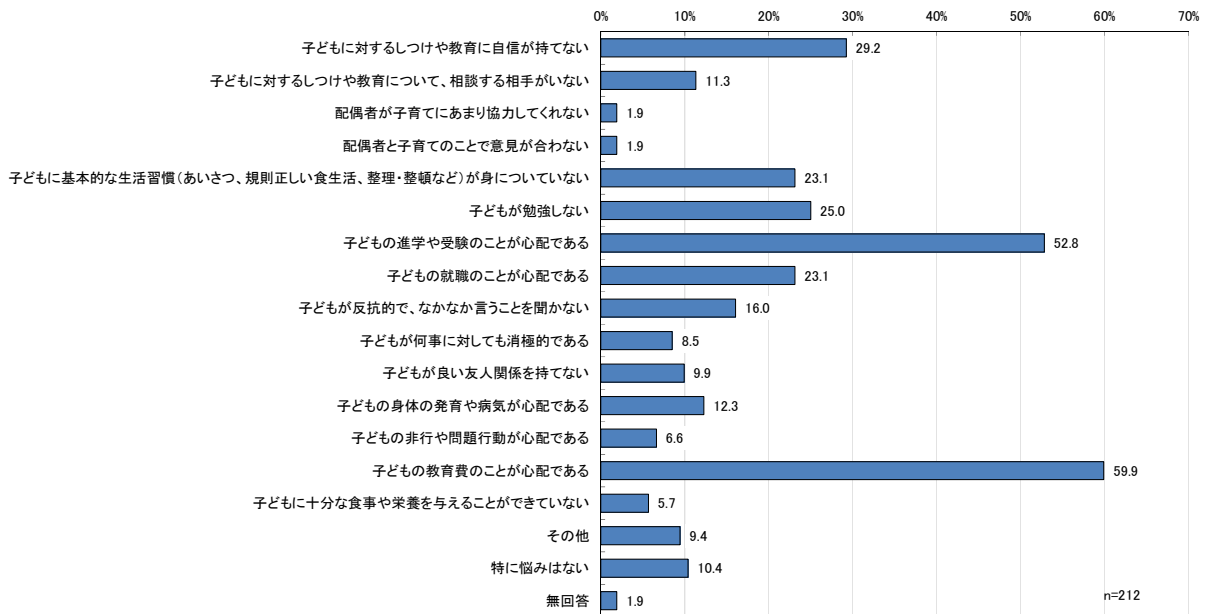
⑮子どものことに関する悩み

子どものことに関する悩みについてたずねたところ、「子どもの教育費のことが心配である」が59.9%で最も多く、次いで「子どもの進学や受験のことが心配である」が52.8%となっており、半数以上が教育や進学に関する悩みがあると回答している（図表 1-15-1）。

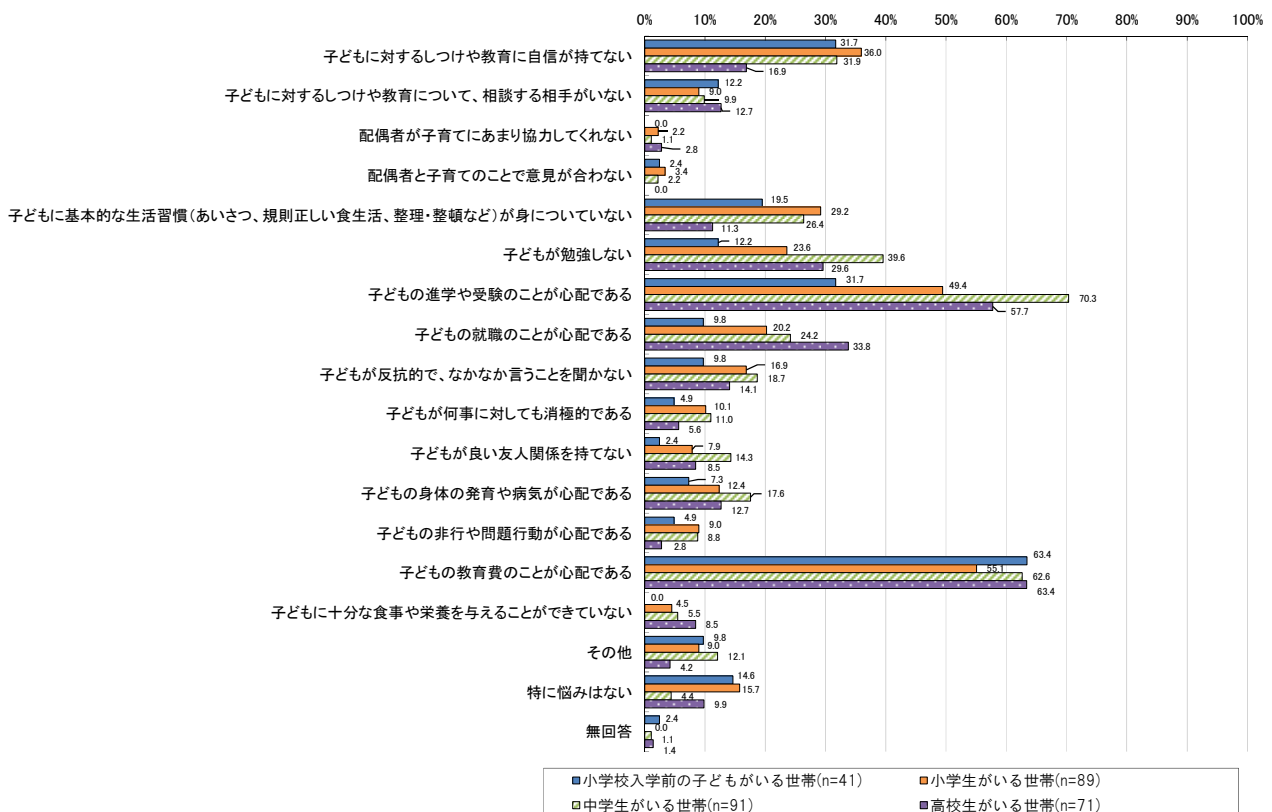
なお、世帯に含まれる子どもの年齢段階別にみた場合にも、「子どもの教育費のことが心配である」を選択した割合はどの年齢段階においても半数を超えていることがわかる（図表 1-15-2）。

設問 子どものことについて、現在悩んでいることはありますか（問 12・複数回答）

図表 1-15-1 子どものことについて現在悩んでいること



図表 1-15-2 世帯に含まれる子どもの年齢段階別の子どものことについて現在悩んでいること



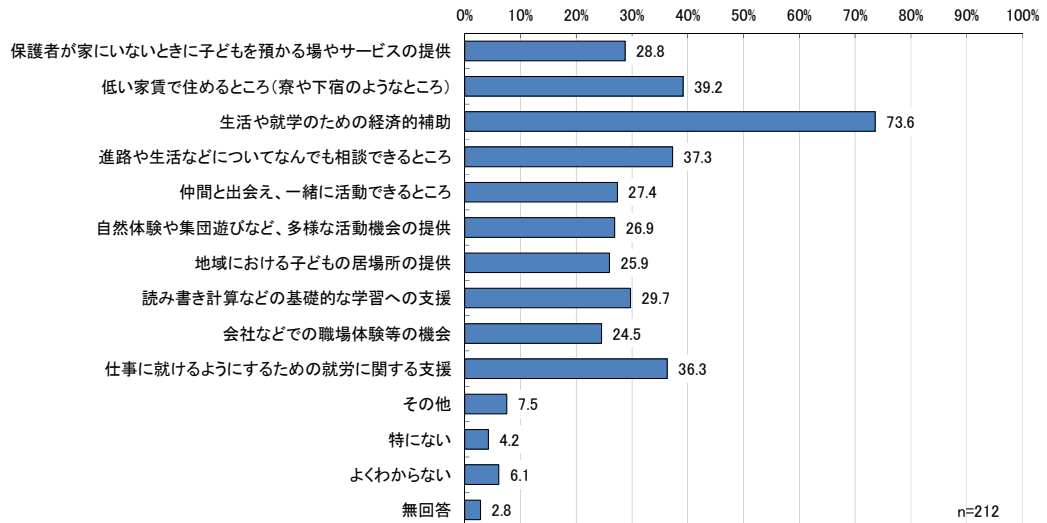
⑯子どものことについて必要な支援等

子どもにとって、現在または将来的に、どのような支援があるとよいと思うかについてたずねたところ、73.6%の方が「生活や就学のための経済的補助」と回答している（図表 1-16-1）。

また、学生ボランティア等による無料の学習支援制度に関する利用意向をたずねたところ、現在利用している世帯を除き、72.3%が「今後利用したいと思う」と回答している（図表 1-16-2）。

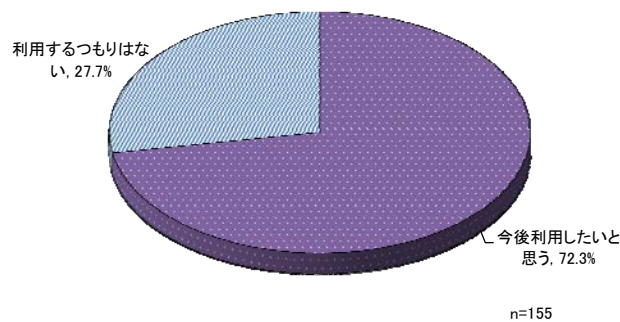
設問 子どもにとって、現在または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか（問 18・複数回答）

図表 1-16-1 子どもにとって現在または将来的にあったらよいと思う支援



設問 学生ボランティア等による、無料の学習支援制度があった場合、利用したいと思いますか（問 17）

図表 1-16-2 学習支援制度に関する利用意向（「現在利用している」、「無回答」を除く）



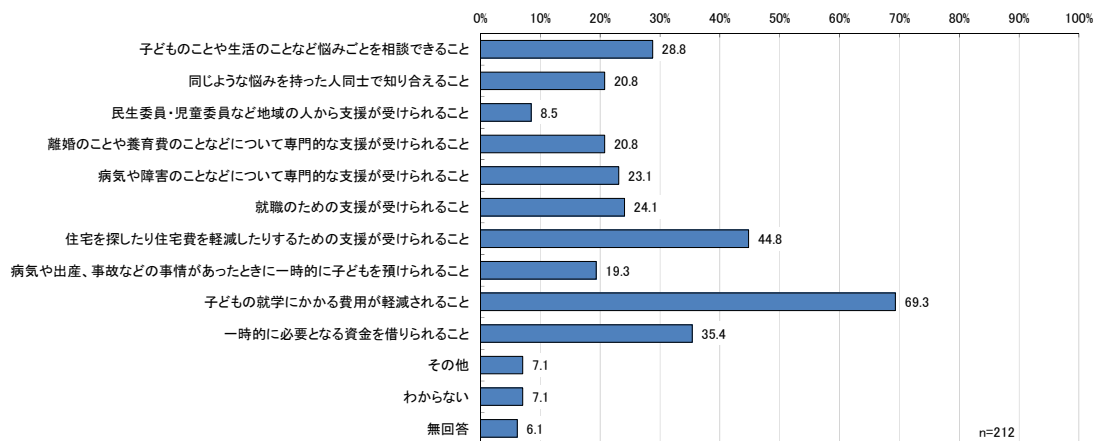
⑰全体として必要と考える支援等

子どものことに限らず、現在必要としていること、重要だと思う支援等についてたずねたところ、「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が最も多く 69.3%、次いで「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」が 44.8%、「一時的に必要な資金を借りられること」が 35.4%となっており、経済的な支援を求める回答が上位を占めている（図表 1-17-1）。

また、必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うことについてたずねたところ、「休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす」「携帯電話・スマートフォンで見られる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」「相談窓口等について行きやすい雰囲気にする」「行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する」の回答が 3 割を上回っており、様々な方策が求められていることがうかがえる（図表 1-17-2）。

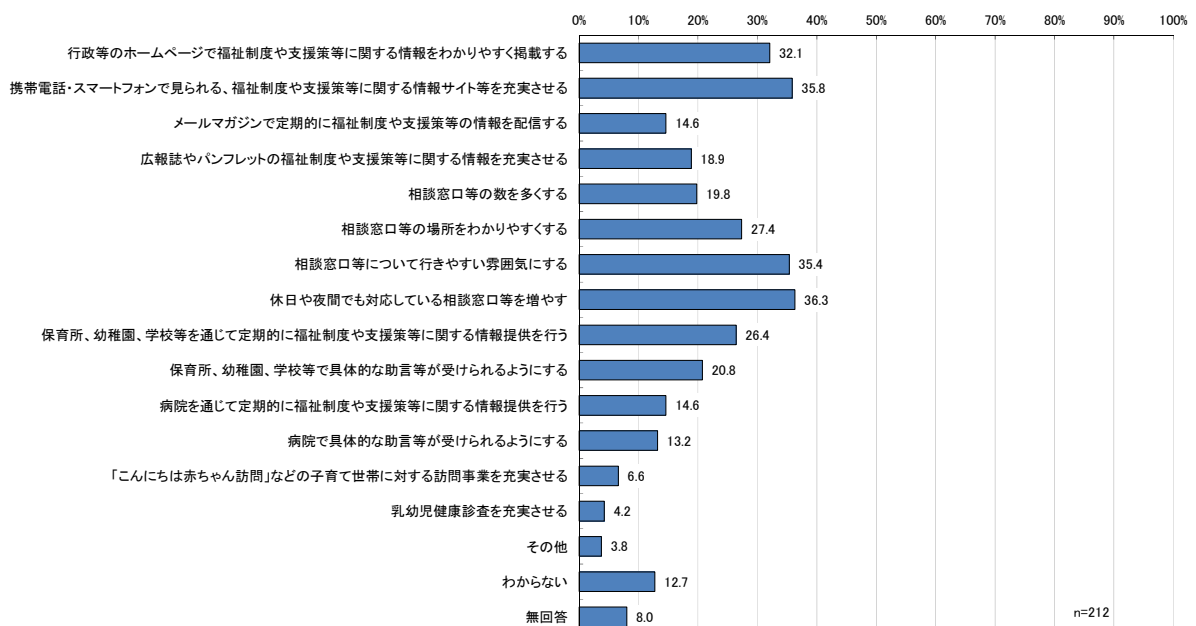
設問 現在必要としていること、重要だと思う支援等はどのようなものですか（問 24・複数回答）

図表 1-17-1 現在必要としていること、重要だと思う支援等



設問 悩み事や困っていることがあるときに必要な支援を受けられるようにするために、重要だと思うことはどのようなことですか（問 25・複数回答）

図表 1-17-2 必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うこと



(2) 中学生・高校生向け調査結果

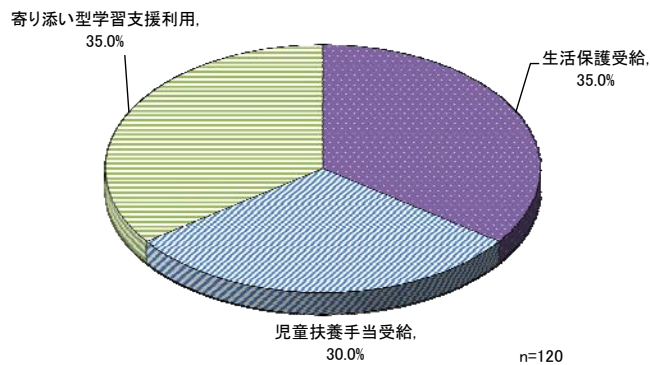
①調査対象種類別の回答状況

中学生・高校生向け調査は、生活保護、児童扶養手当、寄り添い型学習等支援事業の利用者に対して、下表の方法により配布し、合わせて120件の回答があった。

なお、全体のうち、生活保護事業からの回答は35.0%、児童扶養手当事業からの回答は30.0%、寄り添い型学習等支援事業からの回答は35.0%となっている（図表2-1-1）。

利用事業	対象者の属性	配付方法等
生活保護	未就学～18歳未満の子どもがいる世帯の中学生・高校生	市から郵送にて送付（保護者向けの調査票の中に同封）
児童扶養手当	未就学～18歳未満の子どもがいる世帯の中学生・高校生	区のこども家庭支援課窓口にて保護者に配付。保護者向けの調査票の中に同封
寄り添い型学習等支援事業	全利用者（中学生）	利用施設を通じて配付（保護者向けの調査票の中に同封）

図表 2-1-1 調査対象種類



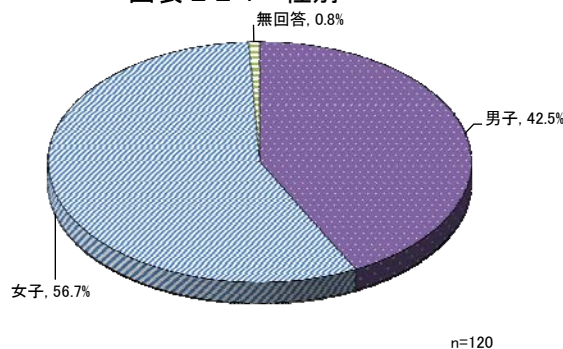
②回答者の属性

回答者の性別は、男子が42.5%、女子が56.7%となっている（図表2-2-1）。通っている学校として「中学校」が65.0%、「高校」が33.3%であり（図表2-2-2）、年齢は「14歳」「15歳」の割合が若干高くなっている（図表2-3-3）。

なお、同居者は、「お母さん」が95.8%、「お父さん」と回答した割合は11.7%となっており、子ども側の回答からも、ひとり親世帯の割合が高くなっていることが推察できる（図表2-3-4）。

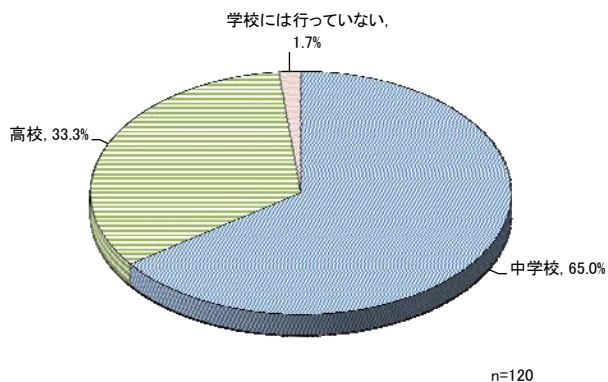
設問 あなたの性別を教えてください（問1）

図表 2-2-1 性別



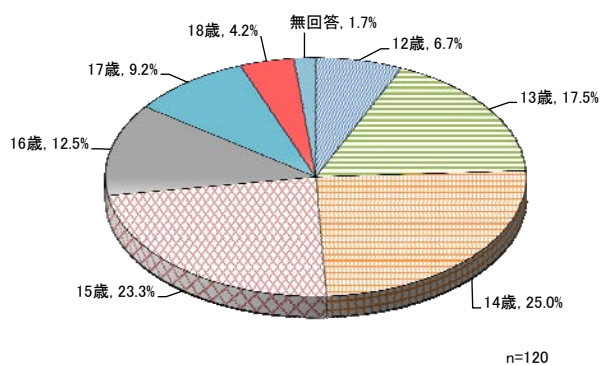
設問 あなたが現在通っている学校を教えてください（問3）

図表 2-2-2 学校段階



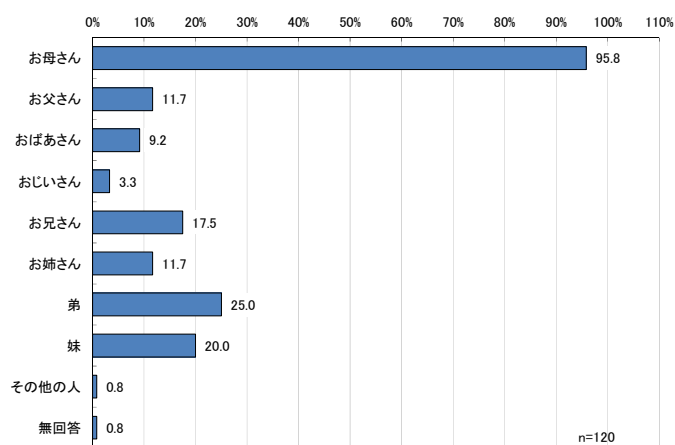
設問 あなたの年齢を教えてください（問2）

図表 2-2-3 年齢



設問 あなたと現在一緒に住んでいる人を教えてください（問11・複数回答）

図表 2-2-4 同居者



③基本的な生活習慣

基本的な生活習慣として、朝決まった時間に起きられるか、朝食を毎日食べるか、食事を一人で食べるか（孤食の状況）、お風呂に毎日入るかについてたずねた。

これらのうち、朝決まった時間に起きられるかについては、40.8%が「起きられる」と回答した一方、11.7%が「起きられない」、16.7%が「どちらかといえば起きられない」と回答している（図表 2-3-1）。

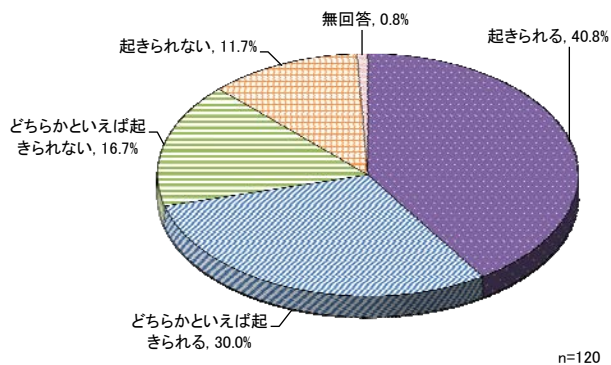
朝ごはんの習慣については、「ほとんど食べない」と10.8%が回答しており、「毎日食べる」以外の回答が約4割となっている（図表 2-3-2）。さらに、食事を一人で食べることが「よくある」と回答したのは18.3%となっている（図表 2-3-3）。

入浴の習慣については、80.0%が「毎日入る」と回答している。「ほとんど入らない」は0%（0件）であったが、「週に3、4日は入る」「週に1、2日は入る」と回答したのは合わせて13.4%となっている（図表 2-3-4）。

なお、朝ごはんの習慣に関して、保護者の回答と中学生・高校生の回答結果を対応させて、保護者の健康状態との関係についてみると、保護者の健康状態が「よい・まあよい」の場合は8割以上が「毎日食べる」との回答となっているに対して、「普通」の場合は45.5%、「あまりよくない・よくない」の場合は58.0%と比較的低くなっている（図表 2-3-5）。また、「あまりよくない・よくない」の場合には、「ほとんど食べない」との回答が18.0%と比較的高くなっている。

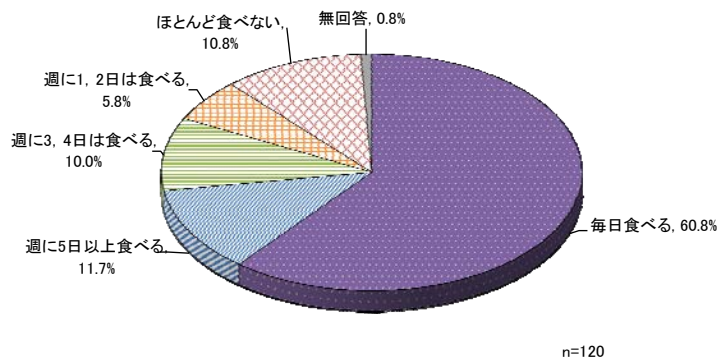
設問 普段（月曜日～金曜日）、朝決まった時間に起きられますか（問4）

図表 2-3-1 起床の習慣



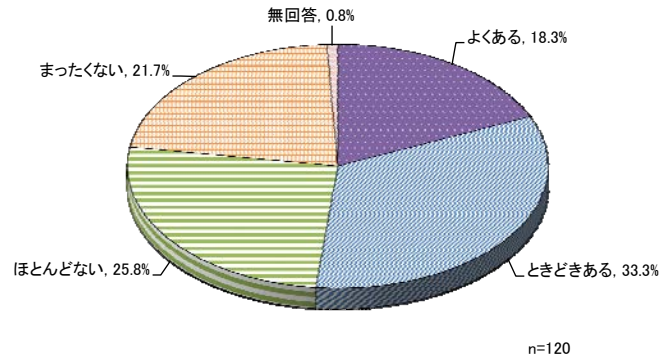
設問 1週間に朝ごはんをどれくらい食べていますか（問5）

図表 2-3-2 朝ごはんの習慣



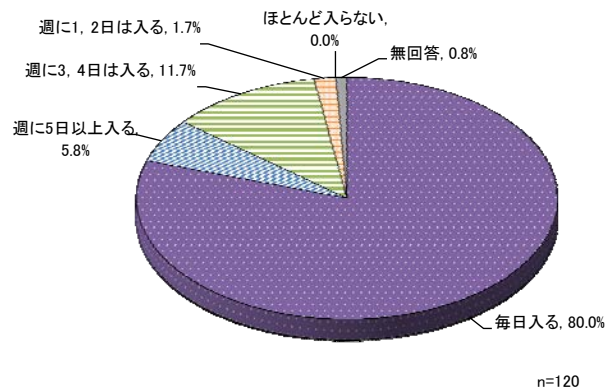
設問 家でひとりでごはんを食べることがありますか（問7）

図表 2-3-3 「孤食」の状況

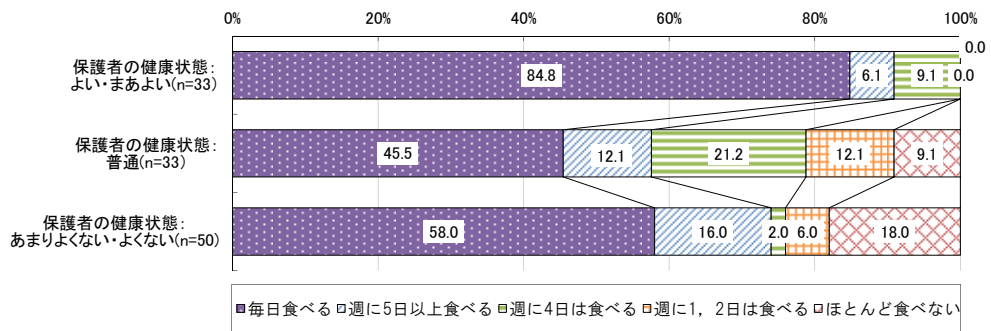


設問 1週間にお風呂（シャワーのみの場合も含む）にどれくらい入っていますか（問6）

図表 2-3-4 入浴の頻度



図表 2-3-5 保護者の健康状態別、朝ごはんの習慣



※朝ごはんの習慣について無回答であったものはここでは集計の対象外とした

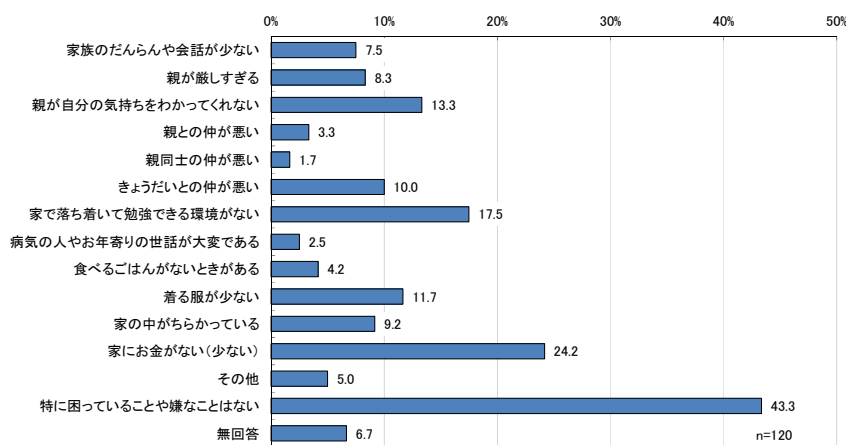
④家族との関係性

家族のことなどで困っていることや嫌なことはあるかをたずねたところ、「特に困っていることや嫌なことはない」との回答が 43.3%と最も多くなっている（図表 2-4-1）。他方で、「家にお金がない（少ない）」には 24.2%、「家で落ち着いて勉強できる環境がない」は 17.5%が回答している。なお、「食べるごはんがないときがある」については、4.2%が回答している。

家族との関係性に関して、「家族で買い物に出かけること」については、「よくある」「ときどきある」と合わせて 75.9%が「ある」と回答している（図表 2-4-2）。同様にたずねた「家庭で勉強を教えてもらおうこと」については、「よくある」「ときどきある」は合わせて 27.5%であり、「ない」との回答が 39.2%と最も多くなっている（図表 2-4-3）。

設問 家族のことなどで、何か困っていることや嫌なことはありますか（問 13・複数回答）

図表 2-4-1 家族のことで困っていることや嫌なこと

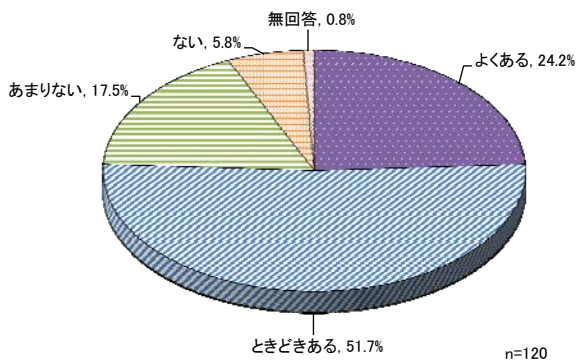


設問 あなたの家庭では、次の（ア）（イ）のようなことがどれくらいありますか。

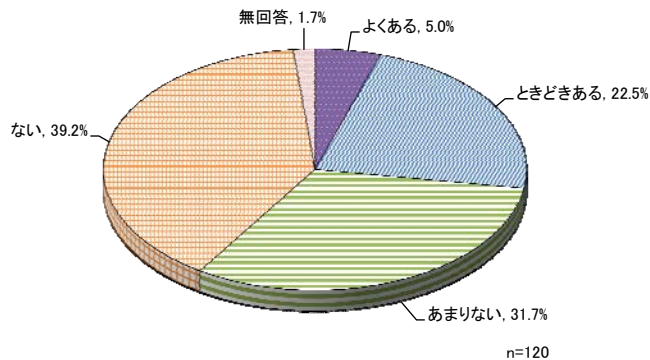
（ア）家族で買い物に出かけること（問 12（ア））

（イ）勉強を教えてもらおうこと（問 12（イ））

図表 2-4-2 家族での買い物の頻度



図表 2-4-3 家庭で勉強を教えもらうことの頻度



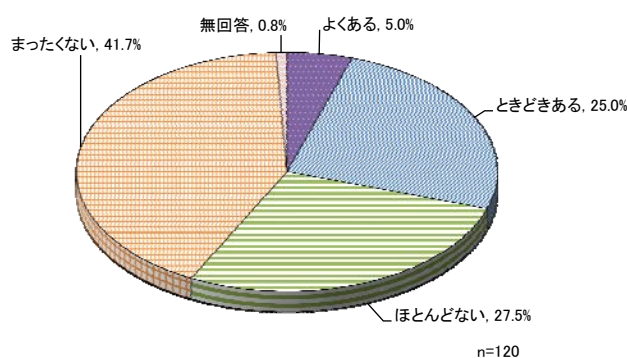
⑤学習環境・学習習慣

ふだんの生活の中で、お金が足りなくて必要とする文具や教材が買えないことがあるかどうかをたずねたところ、「よくある」は 5.0%、「ときどきある」は 25.0%となっている（図表 2-5-1）。このことから、子ども側の回答としても、約 3 分の 1 の世帯でこのような状況が生じていることが把握される（図表 1-11-2 参照）。

また、学習習慣に関して、学校の授業以外で 1 日あたりどれくらいの時間勉強をするかについてたずねたところ、「まったくしない」が最も多く 20.8%となっている（図表 2-5-2）。なお、1 日あたりの勉強時間が 1 時間を下回っている割合は 64.2%となっている。

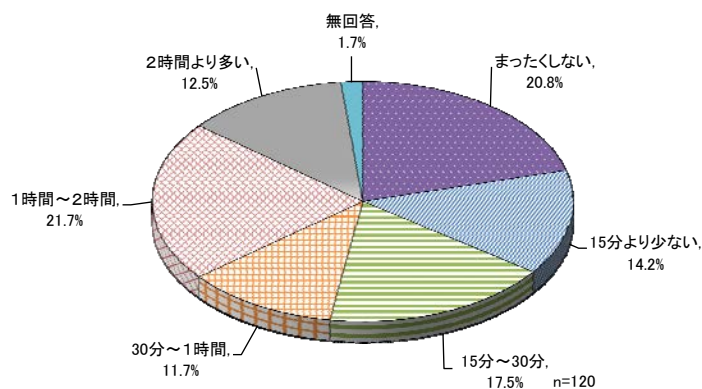
設問 普段の生活の中で、お金が足りなくて、必要とする文具や教材が買えないことはありますか（問 8）

図表 2-5-1 文具や教材の購入



設問 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。塾などの時間も含まれます（問 15）

図表 2-5-2 勉強時間



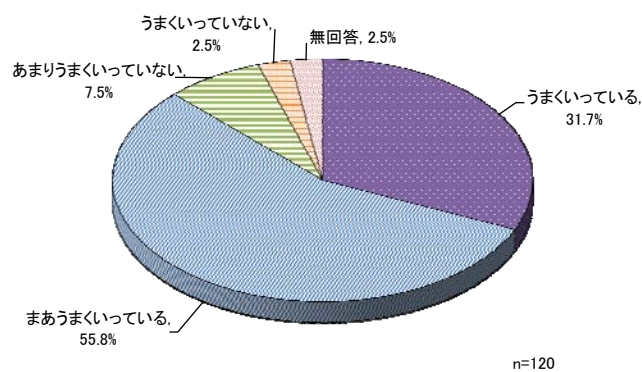
⑥学校での生活

学校での生活の様子に関し、先生との関係についてたずねたところ、「うまくいっている」「まあうまくいっている」との回答は、合わせて87.5%となっている。「あまりうまくいっていない」「うまくいっていない」との回答は合わせて10.0%であった（図表2-6-1）。

同様に友だちとの関係についてたずねたところ、46.7%と、半数近くが「うまくいっている」と回答している（図表2-6-2）。ただし、「あまりうまくいっていない」「うまくいっていない」は11.6%となっており、「先生との関係」と同程度、「あまりうまくいっていない」「うまくいっていない」との回答が見られている。

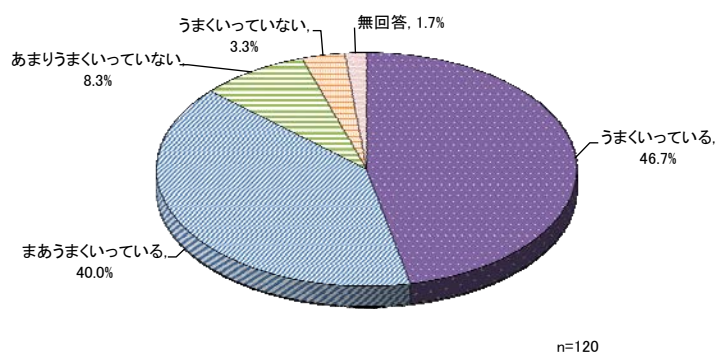
設問 学校生活のことについて、(ア)～(ウ)について教えてください。(イ)先生との関係がうまくいっている（問17(イ)）

図表 2-6-1 先生との関係



設問 学校生活のことについて、(ア)～(ウ)について教えてください。(ウ)友だちとの関係がうまくいっている（問17(ウ)）

図表 2-6-2 友だちとの関係



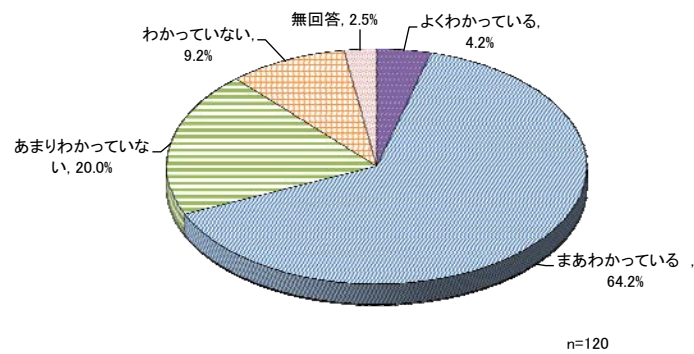
⑦学習の遅れ・成績

学校の授業がよくわかっているかについてたずねたところ、「まあわかっている」が最も多く 64.2% となっている（図表 2-7-1）。ただし、「あまりわかっていない」が 20.0%、「わかっていない」は 9.2% となっており、約 3 割の生徒は授業を十分には理解していないと回答している。

また、学校の成績についてたずねたところ、30.8%が「下のほう」、19.2%が「やや下のほう」と回答しており、成績の分布が下の方に偏っている傾向がみられる（図表 2-7-2）。

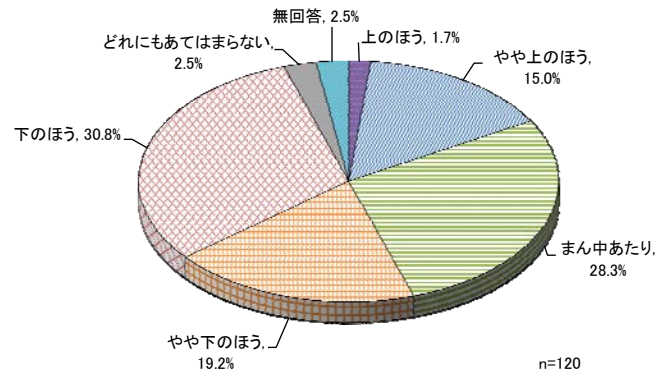
設問 学校生活のことについて、(ア)～(ウ)について教えてください。(ア) 学校の授業がよくわかっている（問 17 (ア)）

図表 2-7-1 授業の理解度



設問 あなたの成績は、学年の中でどのくらいですか（問 16）

図表 2-7-2 成績



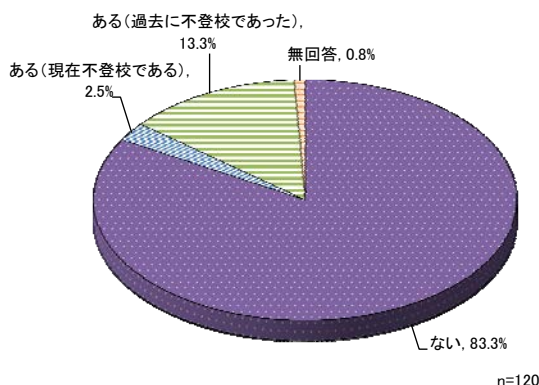
⑧不登校経験

不登校経験の有無について、「現在不登校である」または「過去に不登校であった」と回答したのは合わせて15.8%となっている（図表2-8-1）。

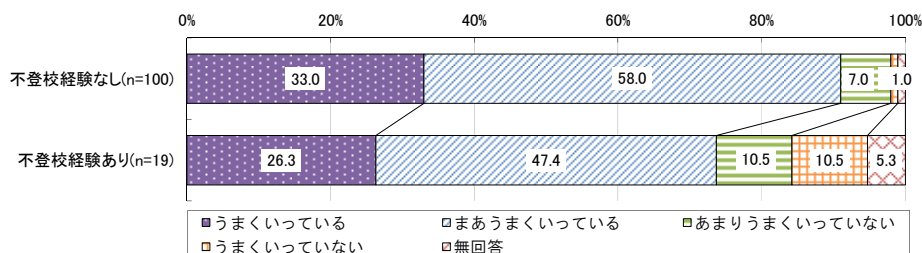
なお、不登校経験の有無と、学校の先生ならびに友だちとの関係がうまくいっているかについての回答との関係を見ると、不登校経験のあるものでは、先生・友だちともに、「あまりうまくいっていない」「うまくいっていない」との回答割合が高い傾向にあることがわかる（図表2-8-2、図表2-8-3）。

設問 これまでに不登校になったことはありますか（問19）

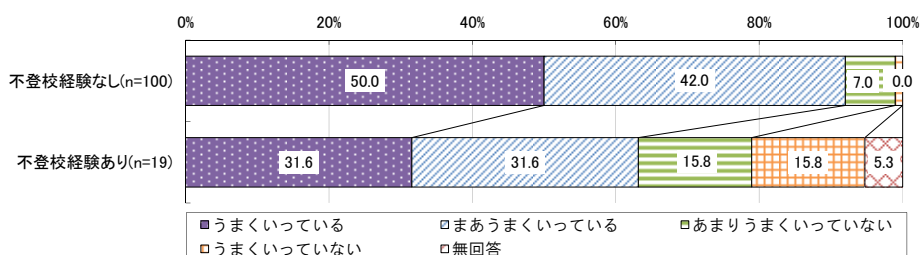
図表 2-8-1 不登校経験



図表 2-8-2 不登校経験の有無別の先生との関係



図表 2-8-3 不登校経験の有無別の友だちとの関係



⑨学校について望んでいること

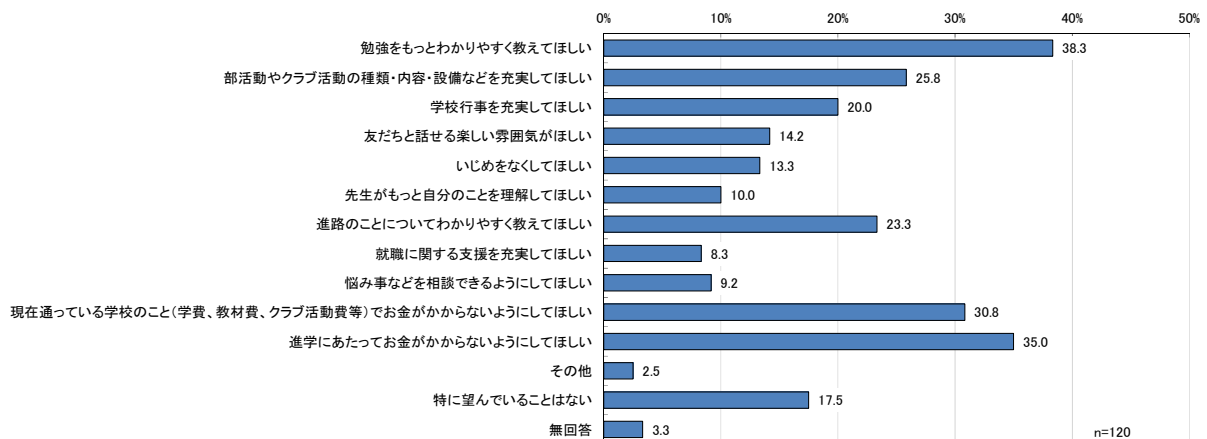
学校について望んでいることをたずねたところ、「勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」が38.3%で最も多く、以下「進学にあたってお金がかからないようにしてほしい」が35.0%、「現在通っている学校のこと（学費、教材費、クラブ活動費等）でお金がかからないようにしてほしい」が30.8%となっており、進学や学校生活での費用負担の軽減を求める回答が比較的多くなっていることがわかる（図表 2-9-1）。

この点について学校段階別にみると、中学生では「勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」が最も多く46.2%となっており、高校生では、「進学にあたってお金がかからないようにしてほしい」が最も多く42.5%となっている（図表 2-9-2）。

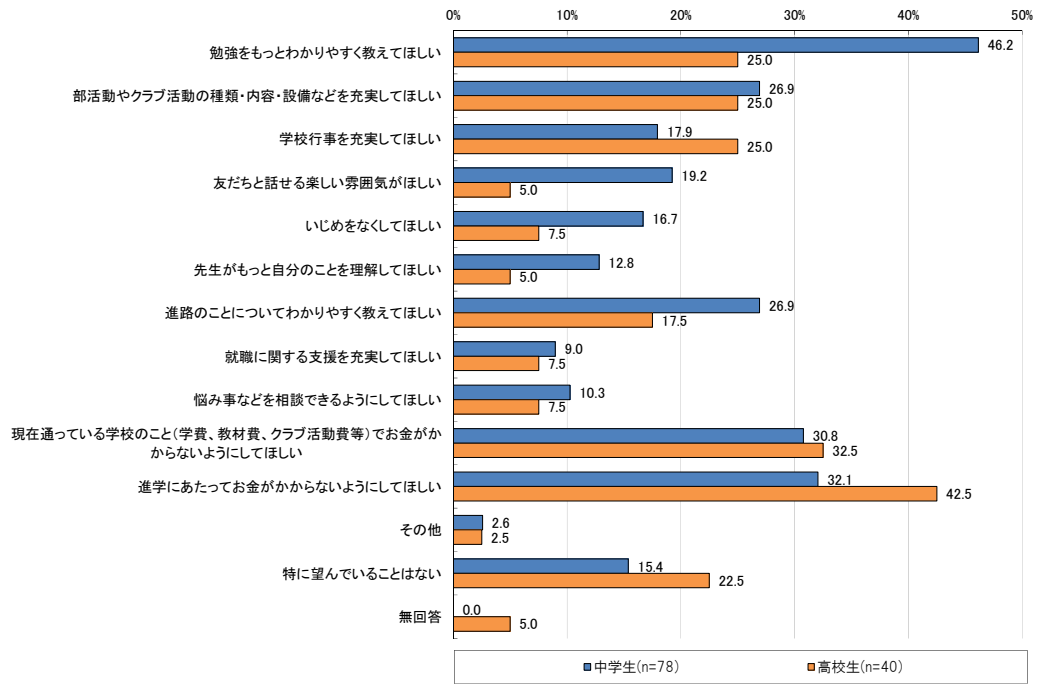
さらに、不登校経験のある回答者が学校について望んでいることをみると、「進学にあたってお金がかからないようにしてほしい」が47.4%、「現在通っている学校のこと（学費、教材費、クラブ活動費等）でお金がかからないようにしてほしい」が42.1%、「いじめをなくしてほしい」が21.1%となっている（図表 2-9-3）。なお、これらの点については、不登校を経験していない回答者に比べて相対的に高い割合で回答されていることがわかる。

設問 学校のことについて、何か望んでいることはありますか（問 18・複数回答）

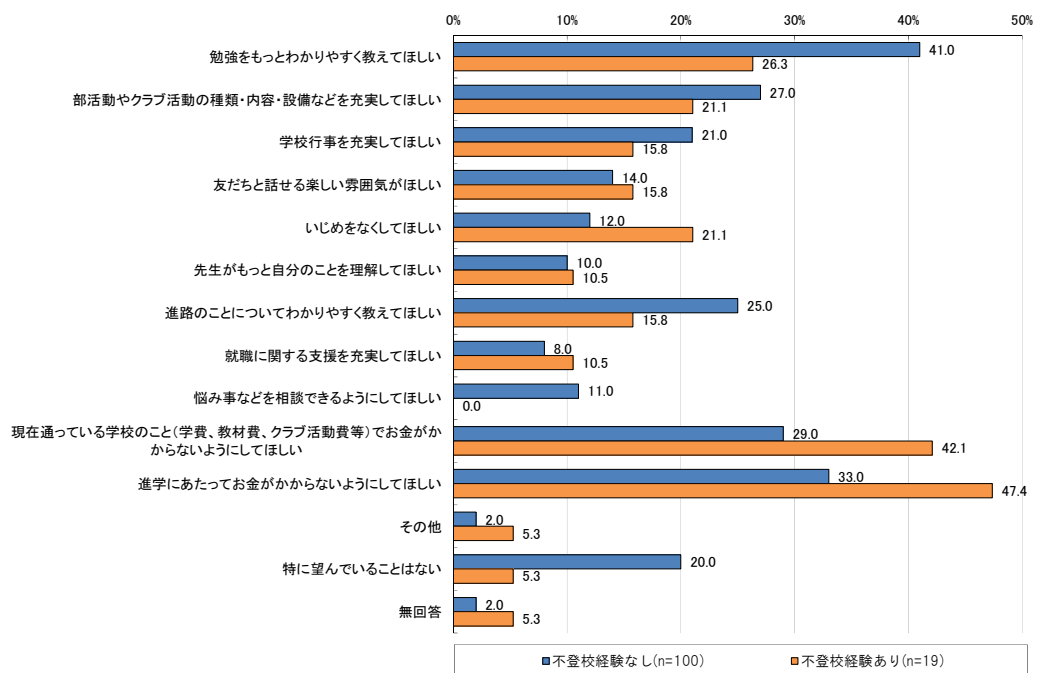
図表 2-9-1 学校について望んでいること



図表 2-9-2 学校段階別、学校について望んでいること



図表 2-9-3 不登校経験の有無別、学校について望んでいること



⑩心身の健康状態、「孤独」の状況

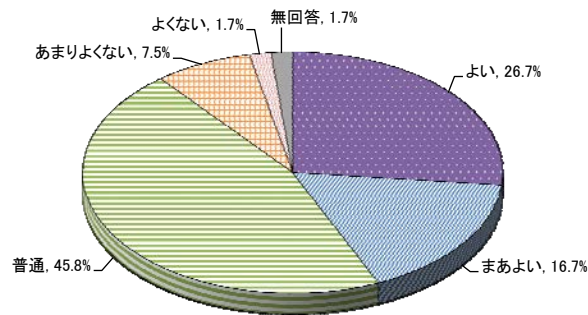
健康状態についてたずねたところ、「普通」が45.8%で最も多くなっている（図表 2-10-1）。なお、「あまりよくない」「よくない」は合わせて9.2%となっている。

また、この1週間で悲しいと感じたことについてたずねたところ、「まったくなかった」と回答したのは60.8%である一方、「週に5日以上」と回答した割合は4.2%となっている（図表 2-10-2）。

同様に、この1週間でゆううつだと感じたことについて、「まったくなかった」と回答したのは43.3%である一方で、「週に5日以上」との回答は7.5%であった（図表 2-10-3）。一人ぼっちで寂しいと感じたことについて、「まったくなかった」と回答したのは83.3%、「週に5日以上」と回答した割合は2.5%となっている（図表 2-10-4）。

設問 自分の健康状態についてどう考えますか（問 9）

図表 2-10-1 健康状態

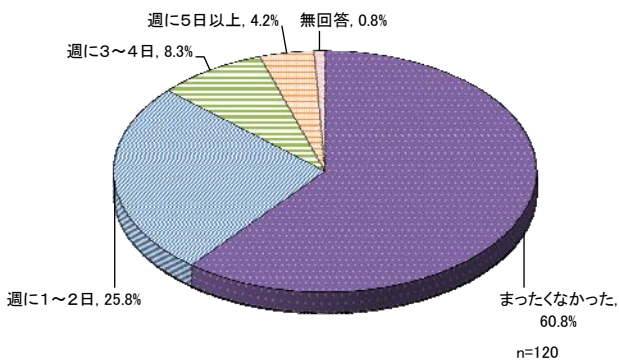


n=120

設問 この1週間で、(ア)～(ウ)のような気分やことがらをどのくらい経験しましたか。

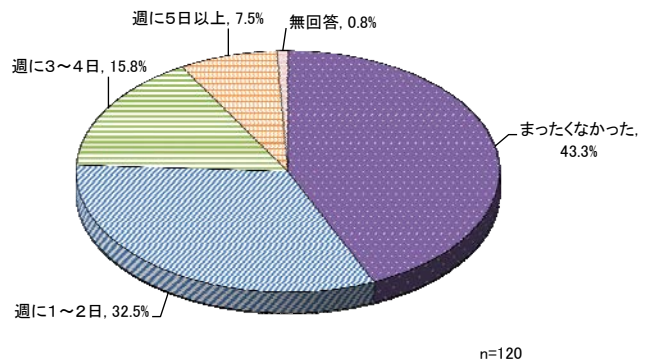
- (ア) 悲しいと感じたこと（問 23（ア））
- (イ) ゆううつだと感じたこと（問 23（イ））
- (ウ) 一人ぼっちで寂しいと感じたこと（問 23（ウ））

図表 2-10-2 悲しいと感じたこと



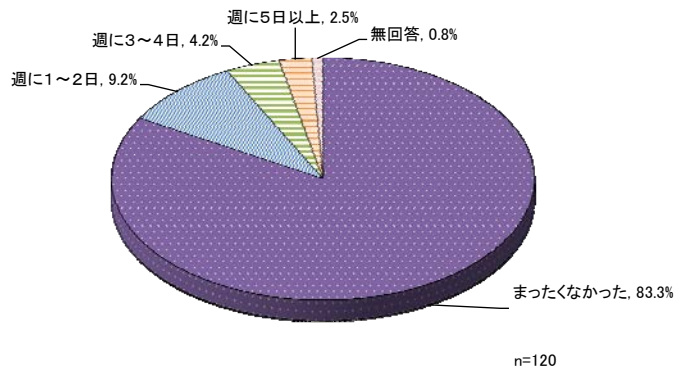
n=120

図表 2-10-3 ゆううつだと感じたこと



n=120

図表 2-10-4 一人ぼっちで寂しいと感じたこと



n=120

⑪ 自信、他者との関係性

「自分に自信がある」かについてたずねたところ、「どちらかという自信がない」は 40.0%、「自信がない」は 20.0%となっており、半数以上が自信がないと回答している（図表 2-11-1）。

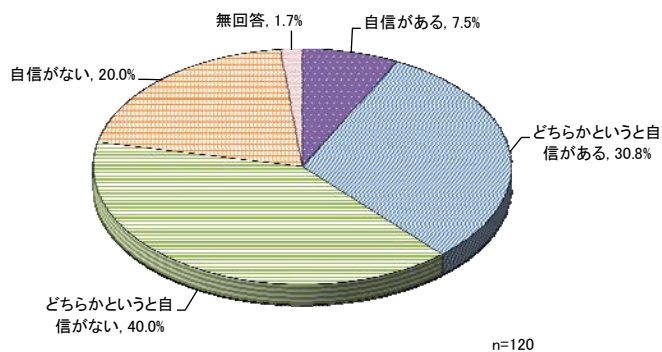
「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」かについては、「どちらかというできない」が 29.2%、「できない」が 15.8%となっており、この点についても半数近くが「できない」との回答となっている（図表 2-11-2）。

また、他者との関係性の持ち方に関して、「人は信用できない」と思うかどうかについてたずねたところ、「そう思う」は 10.8%、「どちらかというそう思う」は 32.5%で、合わせて 43.3%が「人は信用できない」と考える傾向にあった（図表 2-11-3）

さらに、普段の生活でどんなときに楽しさを感じるかについてたずねたところ、「友だちと一緒に過ごしているとき」が最も多く 80.8%となっている（図表 2-11-4）。次いで「家族と一緒に過ごしているとき」、「パソコンや携帯電話、スマートフォンを使っているとき」がともに 49.2%となっている。なお、「楽しさを感じることはない」との回答は 0%（0 件）であったが、「ひとりで過ごしているとき」との回答が 27.5%となっている。

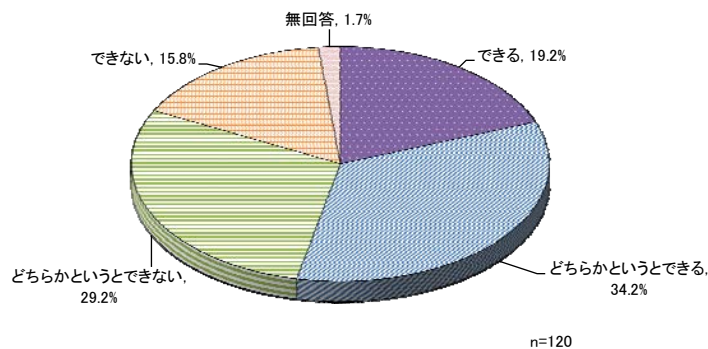
設問 あなたが普段考えていることについて、（ア）～（カ）について教えてください。（ア）自分に自信がある（問 24（ア））

図表 2-11-1 「自分に自信がある」



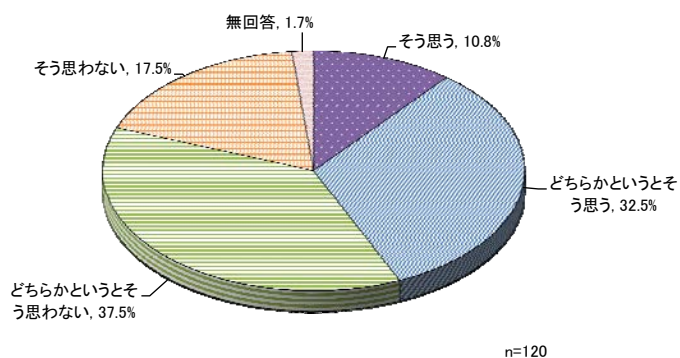
設問 あなたが普段考えていることについて、（ア）～（カ）について教えてください。（イ）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる（問 24（イ））

図表 2-11-2 「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」



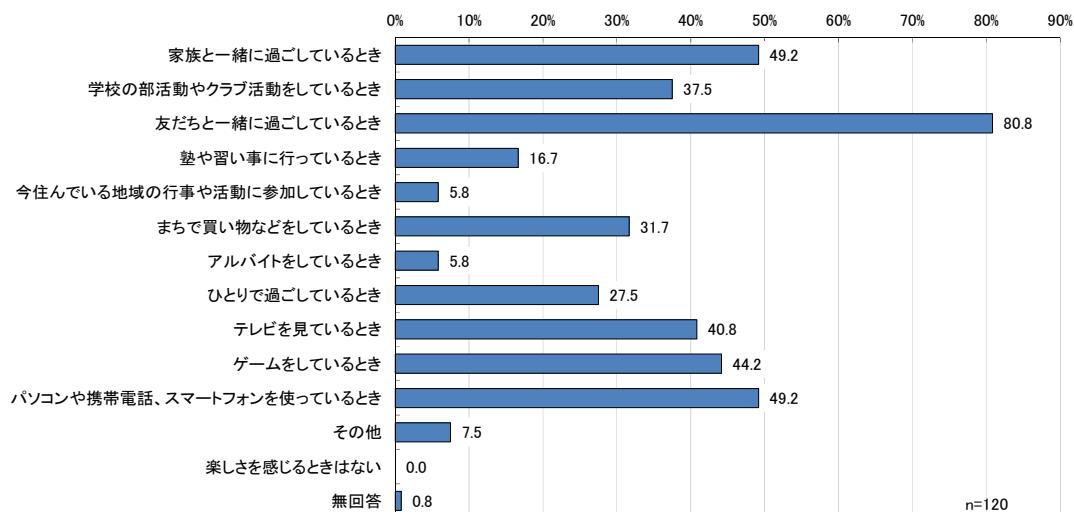
設問 あなたが普段考えていることについて、(ア)～(カ)について教えてください。人は信用できないと思う(問24(ウ))

図表 2-11-3 「人は信用できないと思う」



設問 普段の生活で、どんなときに楽しさを感じますか(問10・複数回答)

図表 2-11-4 普段の生活の中で楽しさを感じる時



⑫ロールモデル、支援者の有無

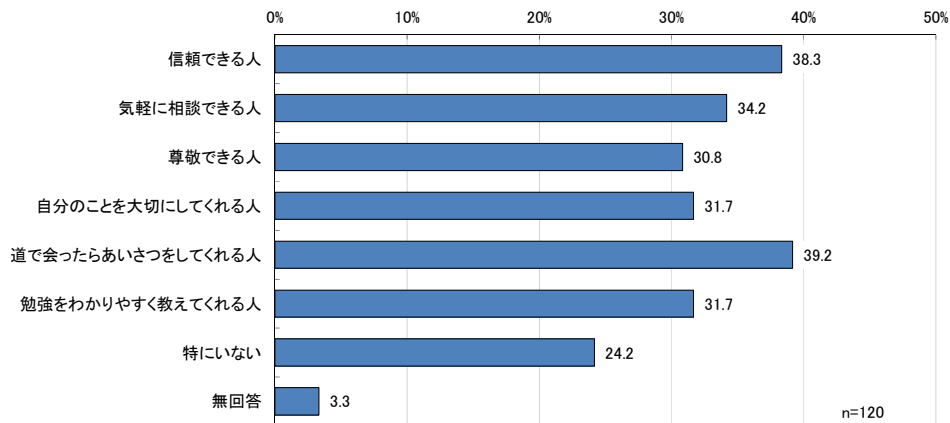
親以外で周囲にどのような大人がいるかについてたずねたところ、「道で会ったら挨拶をしてくれる人」が39.2%と最も多く、「信頼できる人」が38.3%、「気軽に相談できる人」が34.2%となっている（図表 2-12-1）。他方で、信頼、相談、尊敬できる人や挨拶できる人などが「特にいない」との割合は24.2%であった。

また、悩んでいるときに相談する相手についてたずねたところ、「家族」が最も多く62.5%、次いで「学校の友だち」が55.0%となっている（図表 2-12-2）。ただし、「誰にも相談したくない」が8.3%、「誰にも相談できない」が4.2%となっており、必ずしも相談相手がいる者ばかりではないことがうかがえる。

なお、相談したいことの内容（悩んでいることや心配なこと、困っていることや誰かに相談したいこと）としては、「進学のこと」が最も多く45.0%、「学校の勉強のこと」が35.0%となっている（図表 2-12-3）。

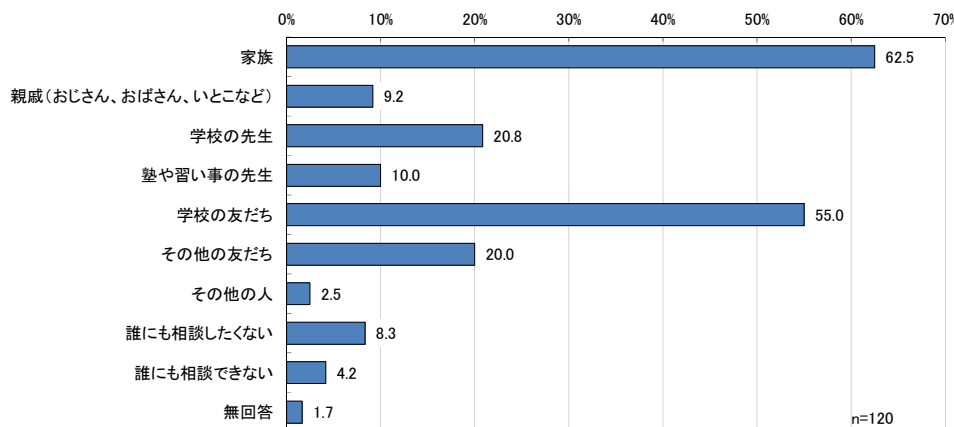
設問 あなたのまわりには、親以外で、次のような大人はいますか（問 14・複数回答）

図表 2-12-1 周囲にいる大人



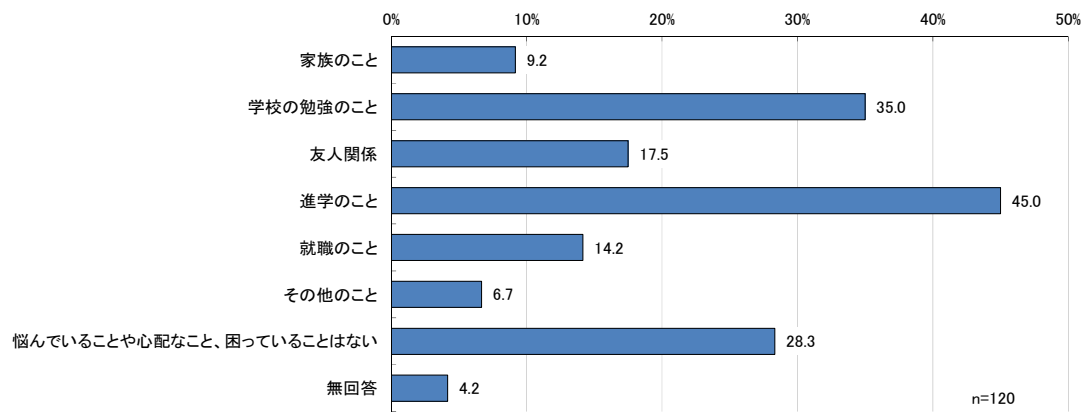
設問 あなたが悩んでいるときに、相談に乗ってくれる人は誰ですか（問 25・複数回答）

図表 2-12-2 相談相手



設問 悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることがあれば、教えてください（問 26・複数回答）

図表 2-12-3 悩んでいることや心配なこと、困っていることや誰かに相談したいこと



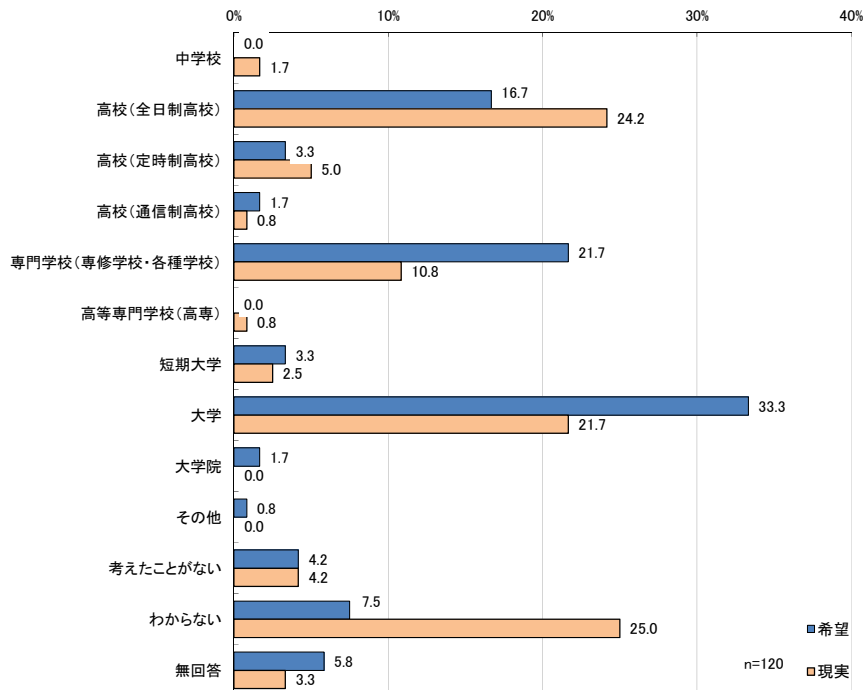
⑬希望する学歴

「希望する学歴」についてたずねたところ、「大学」が最も多く 33.3%、次いで「専門学校（専修学校・各種学校）」が 21.7%となっている。他方で、「現実的な学歴」については、「高校（全日制高校）」が 24.2%、「大学」は 21.7%、「専門学校（専修学校・各種学校）」が 10.8%、「わからない」が 25.0%となっている（図表 2-13-1）。

学歴に関して、希望と現実が異なると考える理由としては、「自分の学力から考えて」が 58.3%、「家に経済的な余裕がないから」が 43.3%となっており、学力の問題のほか、経済的な理由で進学希望がかなわない場合もあることがうかがえる（図表 2-13-2）。

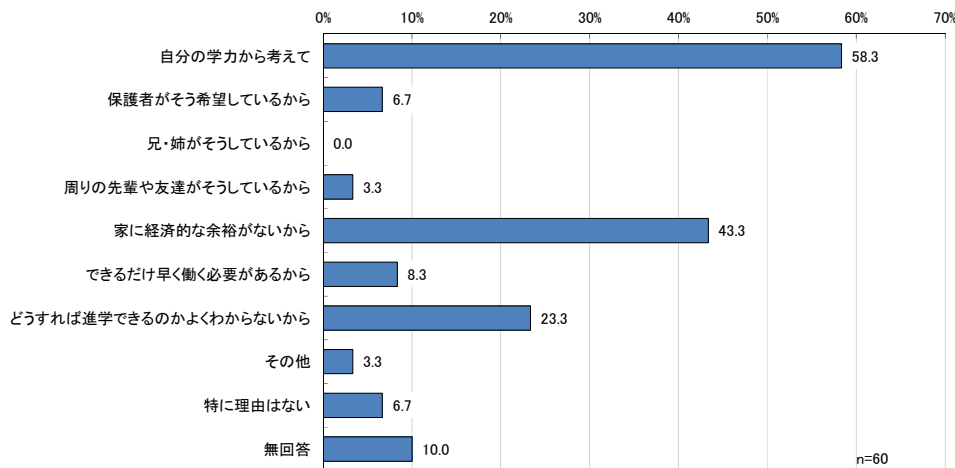
設問 希望としては、将来どの学校まで行きたいと思いますか（問 20）
 現実としては、将来どの学校まで行くことになると思いますか（問 21）

図表 2-13-1 希望する学歴、現実として考える学歴



設問 希望と現実が異なると考えるのはなぜですか（問 22・複数回答）

図表 2-13-2 希望と現実が異なると考える理由



⑭将来展望意識

将来に対する意識として、「自分の将来について明るい希望を持っている」かについてたずねたところ、「持っている」「どちらかというを持っている」の肯定的な回答が合わせて 67.5%、「どちらかというを持っていない」「持ってない」という否定的な回答が合わせて 31.7%となっている（図表 2-14-1）。

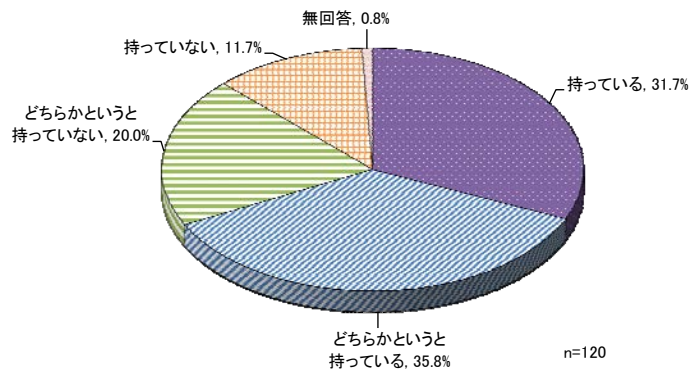
同様に、「将来のためにも、今がんばりたいと思う」かどうかについては、「そう思う」「どちらかというと思う」という肯定的な回答は 87.5%、「どちらかというと思わない」「そう思わない」という否定的な回答が 11.6%となっている（図表 2-14-2）。また、「将来、一生懸命働きたい」かについては、「働きたい」「どちらかという働きたい」と肯定的な回答をした割合は 92.5%となっている（図表 2-14-3）。

なお、「自分の将来について明るい希望を持っている」との意識について、保護者の回答と中学生・高校生の回答結果を対応させて、保護者が「経済的な理由により、子どもの進学を諦めさせたり学校を中退させたりしたことがある、または、今後その可能性がある」と回答しているか否かとの関係について把握した。その結果、保護者が「ある、または今後その可能性がある」と回答している場合、「これまでになく、今後もその可能性はない（可能性は低い）」と回答している場合と比較して、将来についての希望を「持っている」との割合が比較的低くなっている（図表 2-14-4）。

設問 あなたが普段考えていることについて、(ア)～(カ)について教えてください。

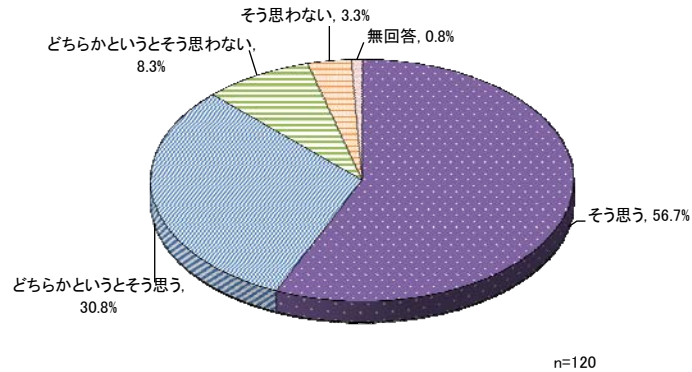
(エ) 自分の将来について明るい希望を持っている（問 24 (エ)）

図表 2-14-1 「明るい希望を持っている」



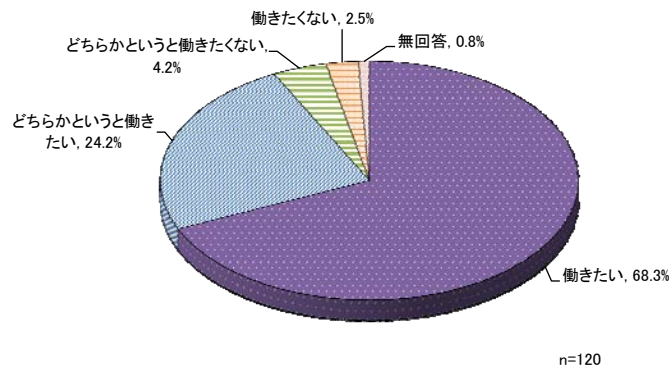
設問 あなたが普段考えていることについて、(ア)～(カ)について教えてください。
 (オ) 将来のためにも、今がんばりたいと思う (問 24 (オ))

図表 2-14-2 「今がんばりたいと思う」

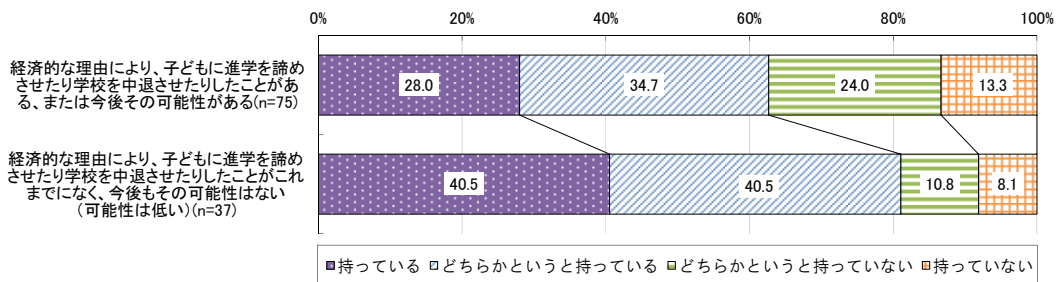


設問 あなたが普段考えていることについて、(ア)～(カ)について教えてください。
 (カ) 将来、一生懸命働きたい (問 24 (カ))

図表 2-14-3 「将来、一生懸命働きたい」



図表 2-14-4 経済的な理由による進学断念や中退の可能性別、「明るい希望を持っている」



※「自分の将来について明るい希望を持っている」に無回答のものはここでは集計の対象外とした

(3) 児童養護施設入所者向け調査結果

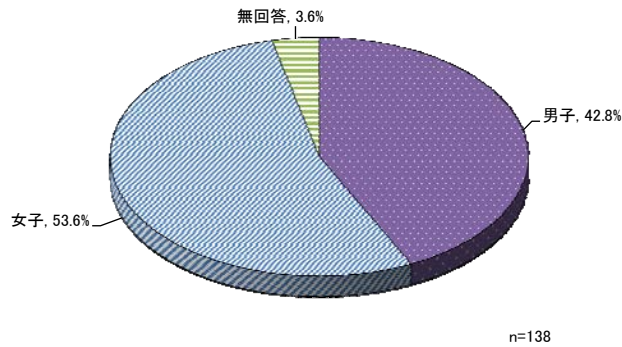
①回答者の属性

児童養護施設に入所している中学生・高校生向け調査については、138件の回答があった。

回答者の性別は、男子が42.8%、女子が53.6%となっている(図表3-1-1)。通っている学校として「中学校」が52.9%、「高校」が43.5%であり(図表3-1-2)、年齢は「14歳」の割合が若干高くなっている(図表3-1-3)。

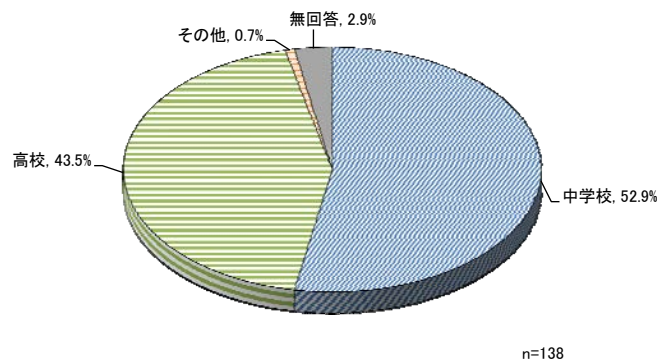
設問 あなたの性別を教えてください(問1)

図表 3-1-1 性別



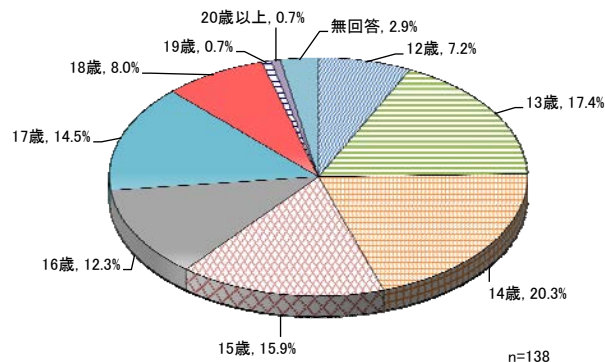
設問 あなたが現在通っている学校を教えてください(問3)

図表 3-1-2 学校段階



設問 あなたの年齢を教えてください(問2)

図表 3-1-3 年齢



※「19歳」「20歳以上」の者について、定時制高校等に通っている可能性があることから、対象に含めて集計している。

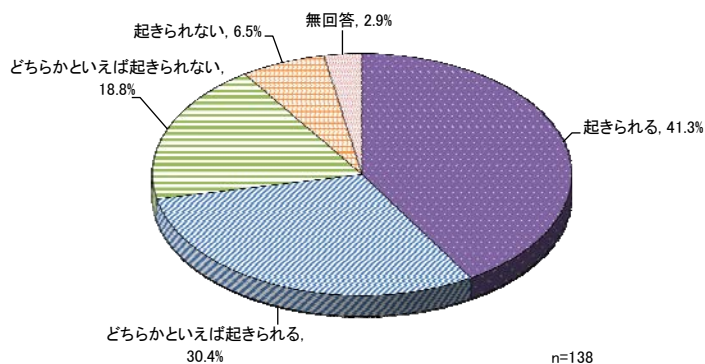
②基本的な生活習慣、学習習慣

基本的な生活習慣として、朝決まった時間に起きられるかについてたずねたところ、41.3%が「起きられる」と回答した一方、6.5%が「起きられない」、18.8%が「どちらかといえば起きられない」と回答している（図表 3-2-1）。なお、児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、「起きられない」との割合は児童養護施設入所者のほうが若干低くなっている（図表 2-3-1 参照）。

また、学習習慣に関して、学校の授業時間以外で1日あたりどれくらいの時間勉強をするかたずねたところ、最も多かった回答は「まったくしない」で31.9%となっている（図表 3-2-2）。なお、1日あたりの勉強時間が1時間を下回っている割合は73.9%となっている。この点について児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、「まったくしない」との割合は児童養護施設入所者のほうが高くなっていることがわかる（図表 2-5-2 参照）。

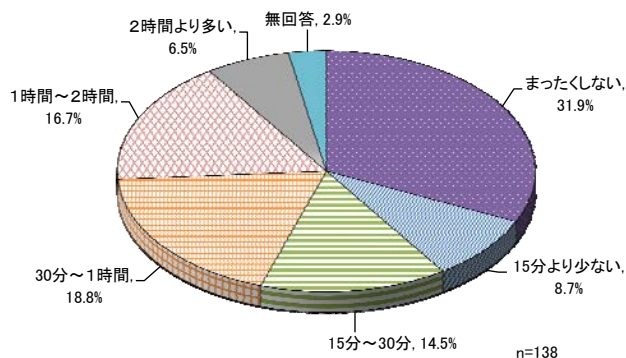
設問 普段（月曜日～金曜日）、朝決まった時間に起きられますか（問4）

図表 3-2-1 起床の習慣



設問 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。塾などの時間も含まれます（問7）

図表 3-2-2 勉強時間



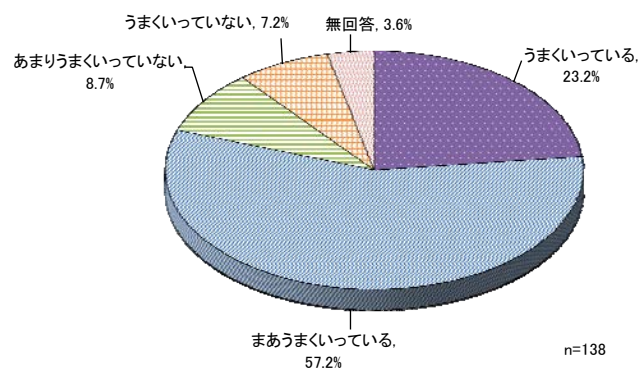
③学校での生活

学校での生活の様子に関し、先生との関係についてたずねたところ、「うまくいっている」「まあうまくいっている」との回答は、合わせて80.4%となっている。「あまりうまくいっていない」「うまくいっていない」との回答は合わせて15.9%であった（図表3-3-1）。

同様に友だちとの関係についてたずねたところ、「うまくいっている」「まあうまくいっている」との回答は、合わせて82.7%となっている（図表3-3-2）。「あまりうまくいっていない」「うまくいっていない」は合わせて13.8%であり、「先生との関係」と同程度、「あまりうまくいっていない」「うまくいっていない」との回答が見られている。

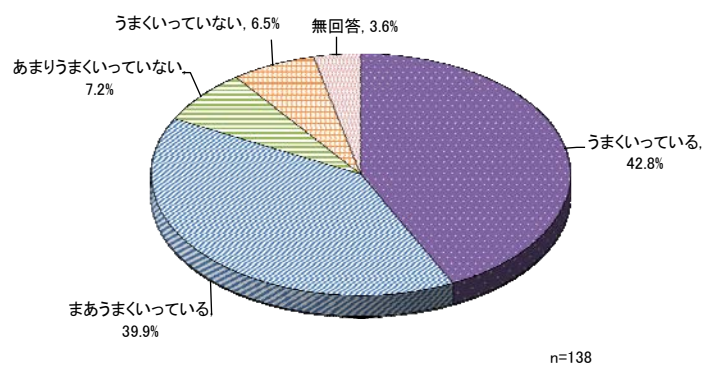
設問 学校生活のことについて、(ア)～(ウ)について教えてください。(イ)先生との関係がうまくいっている（問9(イ)）

図表 3-3-1 先生との関係



設問 学校生活のことについて、(ア)～(ウ)について教えてください。(ウ)友だちとの関係がうまくいっている（問9(ウ)）

図表 3-3-2 友だちとの関係



④学習の遅れ・成績、不登校経験

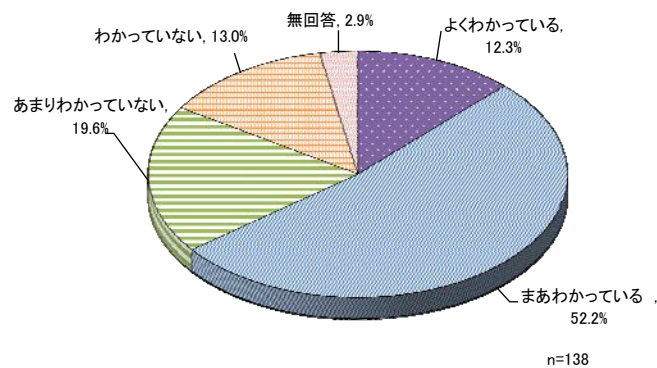
学校の授業がよくわかっているかについてたずねたところ、「まあわかっている」が最も多く 52.2% となっている（図表 3-4-1）。ただし、「あまりわかっていない」が 19.6%、「わかっていない」は 13.0% となっており、約 3 分の 1 は授業を十分には理解していないと回答している。

また、学校の成績についてたずねたところ、20.3%が「下のほう」、15.2%が「やや下のほう」と回答している（図表 3-4-2）。この点について、児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、児童養護施設入所者のほうが「下のほう」との回答割合が低く、「上のほう」の割合が高い傾向がみられる（図表 2-7-2 参照）。

不登校経験については、約 4 人に 1 人の 24.6%が「ある（過去に不登校であった）」と回答している（図表 3-4-3）。この点について児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、児童養護施設入所者のほうが若干高くなっている（図表 2-8-1 参照）。

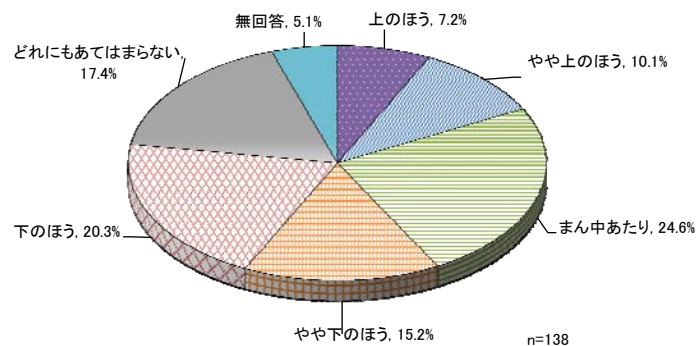
設問 学校生活のことについて、(ア)～(ウ)について教えてください。(ア) 学校の授業がよくわかっている（問 9 (ア)）

図表 3-4-1 授業の理解度



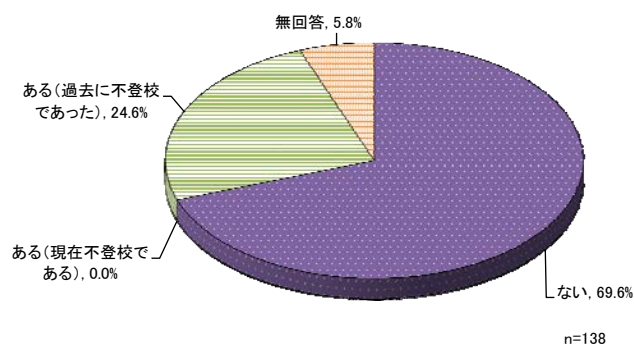
設問 あなたの成績は、学年の中でどのくらいですか（問 8）

図表 3-4-2 成績



設問 これまでに不登校になったことはありますか（問 11）

図表 3-4-3 不登校経験



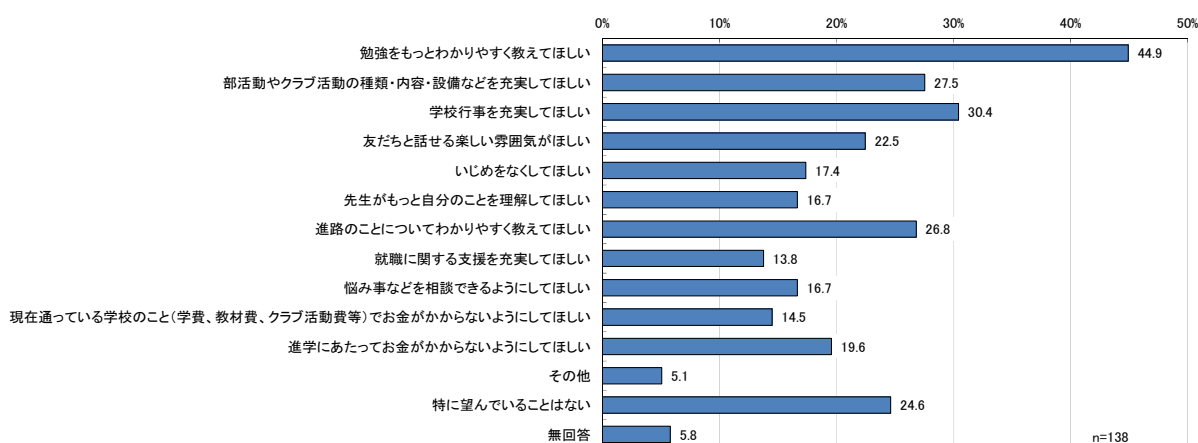
⑤学校について望んでいること

学校について望んでいることをたずねたところ、「勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」が最も多く 44.9%、次いで「学校行事を充実してほしい」が 30.4%、「部活動やクラブ活動の種類・内容・設備などを充実してほしい」が 27.5%となっている（図表 3-5-1）。このほか、「いじめをなくしてほしい」が 17.4%となっている。

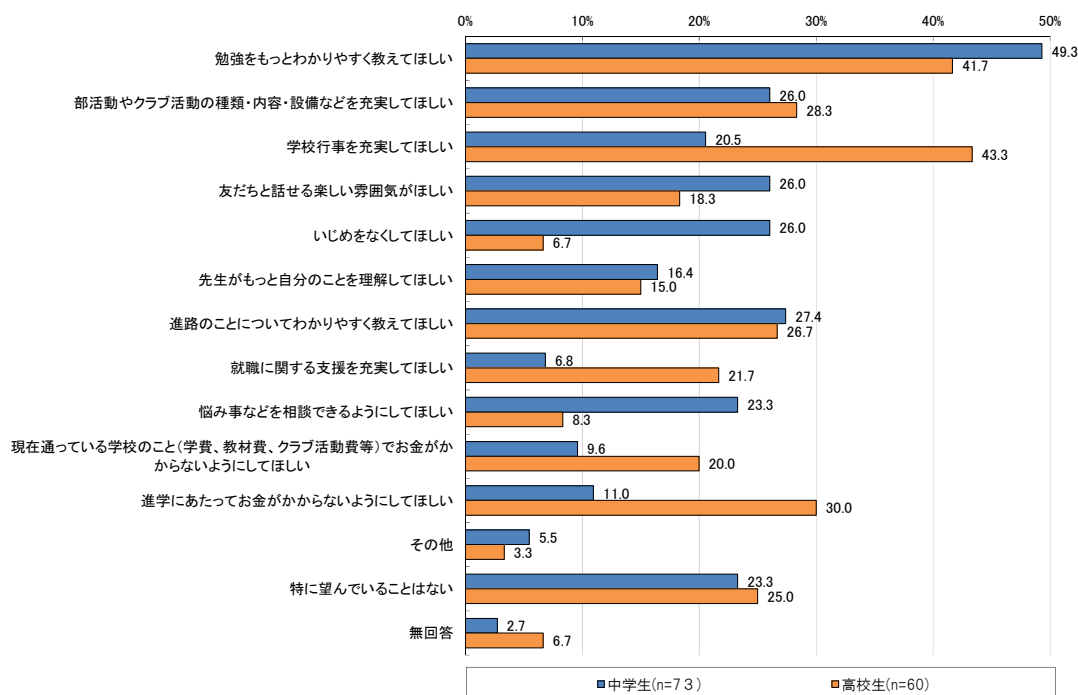
この点について学校段階別にみると、中学生は「勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」が最も多く 49.3%となっており、高校生では「学校行事を充実してほしい」が最も多く 43.3%となっている（図表 3-5-2）。なお、児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、それぞれ、「お金がかからないようにしてほしい」との回答について、児童養護施設入所者のほうが相対的に回答割合が低くなっていることがわかる（図表 2-9-1、図表 2-9-2 参照）

設問 学校のことについて、何か望んでいることはありますか（問 10・複数回答）

図表 3-5-1 学校について望んでいること



図表 3-5-2 学校段階別の学校について望んでいること



⑥心身の健康状態、「孤独」の状況

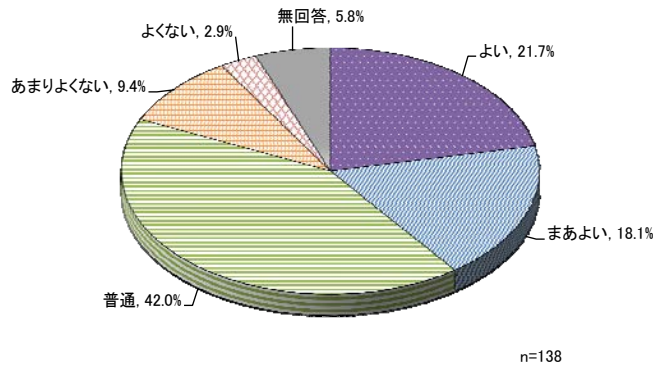
健康状態についてたずねたところ、「普通」が 42.0%と最も多くなっている（図表 3-6-1）。なお、「あまりよくない」「よくない」は合わせて 12.3%となっている。

また、この 1 週間で悲しいと感じたことの有無についてたずねたところ、「まったくなかった」と回答したのは 47.8%である一方、「週に 5 日以上」と回答した割合は 8.0%となっている（図表 3-6-2）。

同様に、この 1 週間でゆううつだと感じたことについて、この 1 週間で「まったくなかった」と回答したのは 40.6%である一方で、「週に 5 日以上」との回答は 13.0%であった（図表 3-6-3）。一人ぼっちで寂しいと感じたことについて、「まったくなかった」と回答したのは 63.0%、「週に 5 日以上」回答した割合は 5.8%となっている（図表 3-6-4）。なお、これらの点について児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、特に「悲しいと感じたこと」「一人ぼっちで寂しいと感じたこと」について、児童養護施設入所者のほうが「まったくなかった」の割合が低くなっている（図表 2-10-2、図表 2-10-3、図表 2-10-4 参照）。

設問 自分の健康状態についてどう考えますか（問 5）

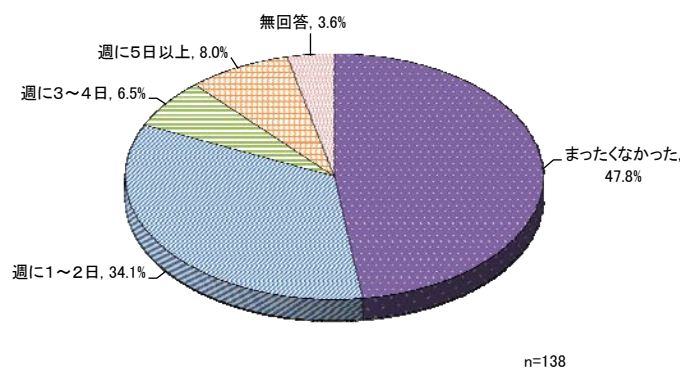
図表 3-6-1 健康状態



設問 この 1 週間で、(ア)～(ウ)のような気分やことがらをどのくらい経験しましたか。

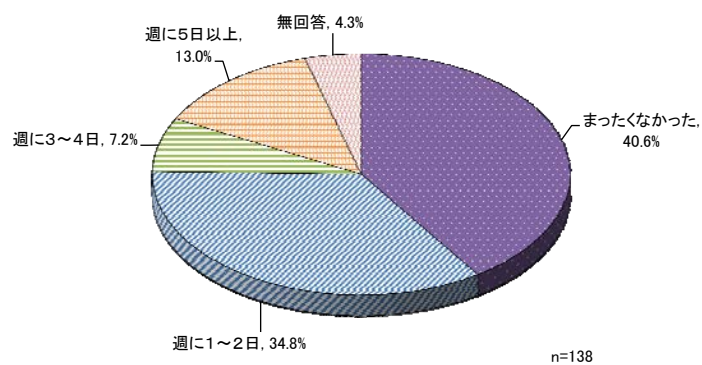
(ア) 悲しいと感じたこと（問 15 (ア)）

図表 3-6-2 悲しいと感じたこと



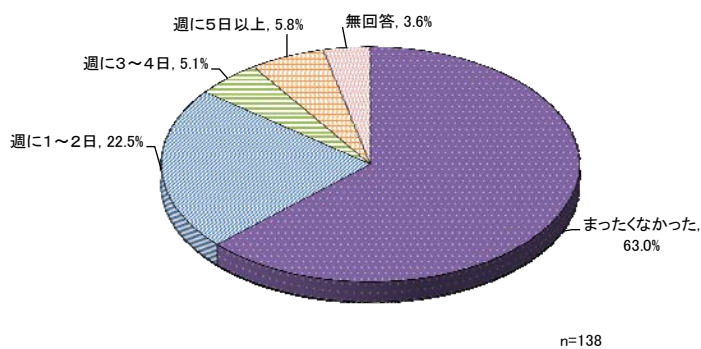
設問 この1週間で、(ア)～(ウ)のような気分やことがらをどのくらい経験しましたか。
(イ) ゆううつだと感じたこと (問 15 (イ))

図表 3-6-3 ゆううつだと感じたこと



設問 この1週間で、(ア)～(ウ)のような気分やことがらをどのくらい経験しましたか。
(ウ) 一人ぼっちで寂しいと感じたこと (問 15 (ウ))

図表 3-6-4 一人ぼっちで寂しいと感じたこと



⑦自信、他者との関係性

「自分に自信がある」かについてたずねたところ、「どちらかという自信がない」は23.2%、「自信がない」は29.0%となっており、半数以上が自信がないと回答している（図表3-7-1）。

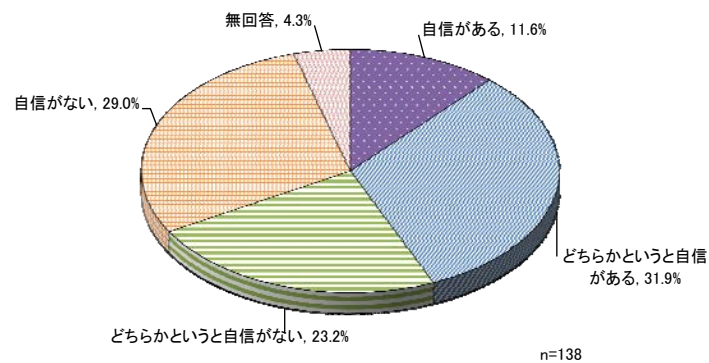
「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」かについては、「どちらかというできない」が29.0%、「できない」が13.0%となっており、この点についても半数近くが「できない」との回答となっている（図表3-7-2）。

また、他者との関係性の持ち方に関して、「人は信用できない」と思うかどうかについてたずねたところ、「そう思う」は24.6%、「どちらかというそう思う」は26.1%で、合わせて50.7%が「人は信用できない」と考える傾向にあった（図表3-7-3）。なお、この点について児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、児童養護施設入所者のほうが「そう思う」の割合が高くなっている（図表2-11-3参照）。

さらに、普段の生活でどんなときに楽しさを感じるかについてたずねたところ、「友だちと一緒に過ごしているとき」が最も多く71.7%となっている（図表3-7-4）。次いで「テレビを見ているとき」52.2%、「ゲームをしているとき」が42.8%となっている。なお、普段の生活で「楽しさを感じることはない」に1.4%が回答しており、「ひとりで過ごしているとき」は40.6%となっている。

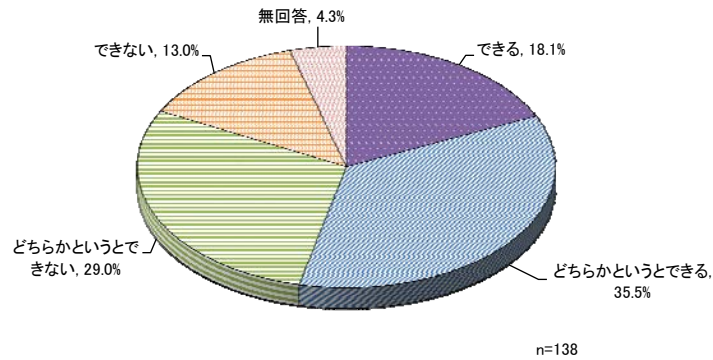
設問 あなたが普段考えていることについて、(ア)～(カ)について教えてください。(ア) 自分に自信がある（問16（ア））

図表3-7-1 「自分に自信がある」



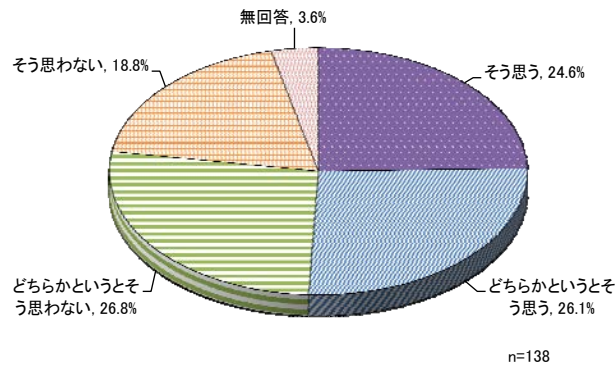
設問 あなたが普段考えていることについて、(ア)～(カ)について教えてください。(イ) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (問 16 (イ))

図表 3-7-2 「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」



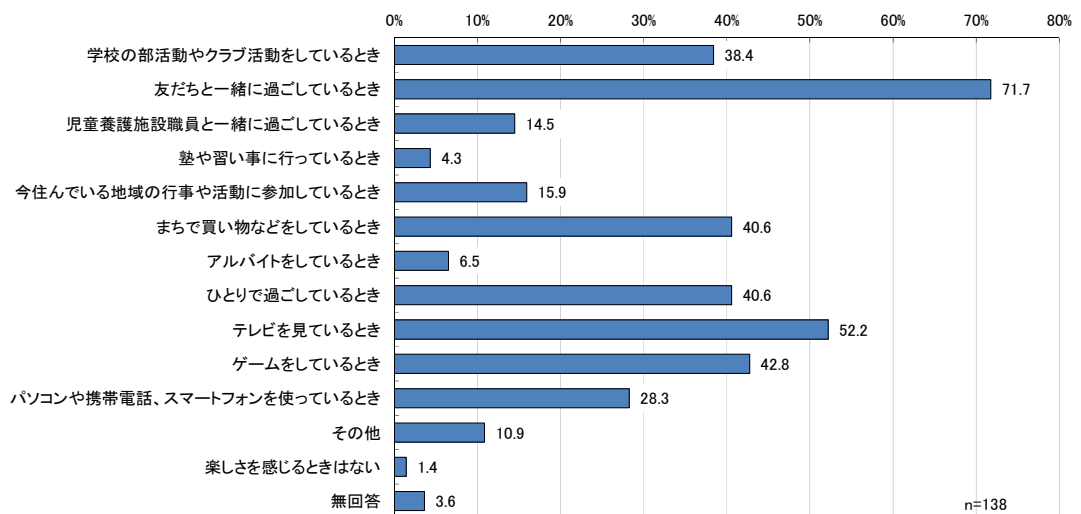
設問 あなたが普段考えていることについて、(ア)～(カ)について教えてください。(ウ) 人は信用できないと思う (問 16 (ウ))

図表 3-7-3 「人は信用できないと思う」



設問 普段の生活で、どんなときに楽しさを感じますか (問 6・複数回答)

図表 3-7-4 普段の生活の中で楽しさを感じる時



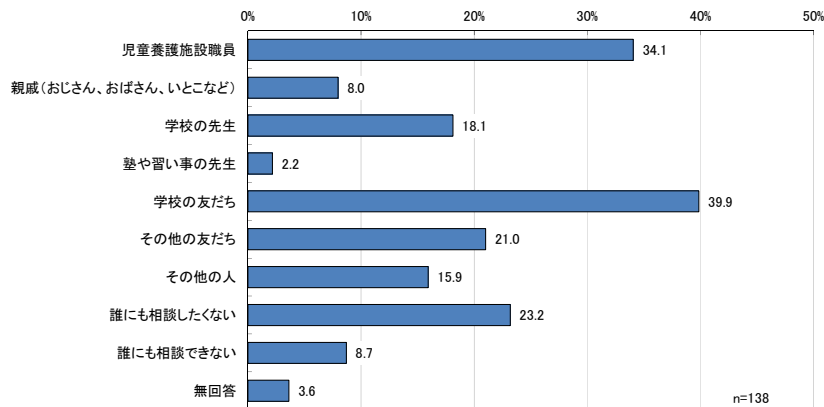
⑧支援者の有無

悩んでいるときに相談する相手についてたずねたところ、「学校の友だち」が最も多く 39.9%、次いで「児童養護施設職員」が 34.1%となっている（図表 3-8-1）。ただし、「誰にも相談したくない」に 23.2%、「誰にも相談できない」に 8.7%が回答しており、必ずしも相談相手がいる者ばかりではないことがうかがえる。また、この点について児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、児童養護施設入所者のほうが「誰にも相談したくない」「誰にも相談できない」の回答割合がそれぞれ高くなっていることがわかる（図表 2-12-2 参照）。

なお、相談したいことの内容（悩んでいることや心配なこと、困っていることや誰かに相談したいこと）としては、「進学のこと」が最も多く 31.9%、次いで「家族のこと」が 30.4%となっている（図表 3-8-2）。これらのほか、施設退所後のお金のことや生活全般のことなど、施設退所後の自立に心配や悩みを抱えていることもうかがえる。

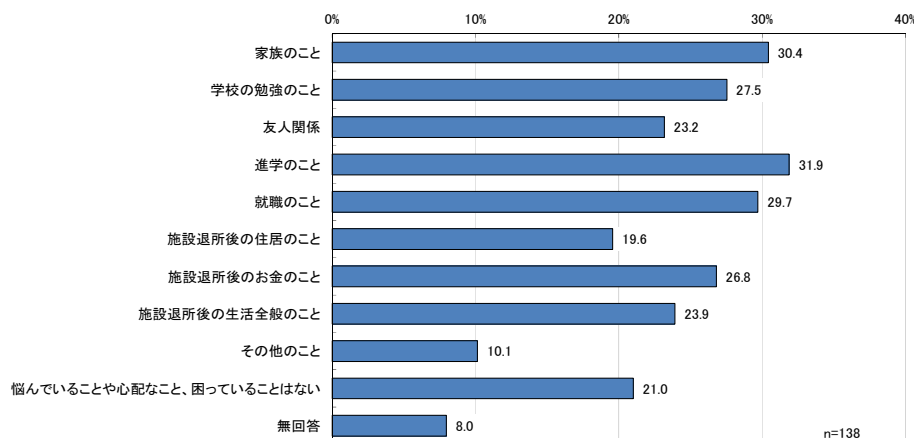
設問 あなたが悩んでいるときに、相談に乗ってくれる人は誰ですか（問 17・複数回答）

図表 3-8-1 相談相手



設問 悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っ
ていことがあれば、教えてください（問 18・複数回答）

図表 3-8-2 悩んでいることや心配なこと、困っていることや誰かに相談したいこと



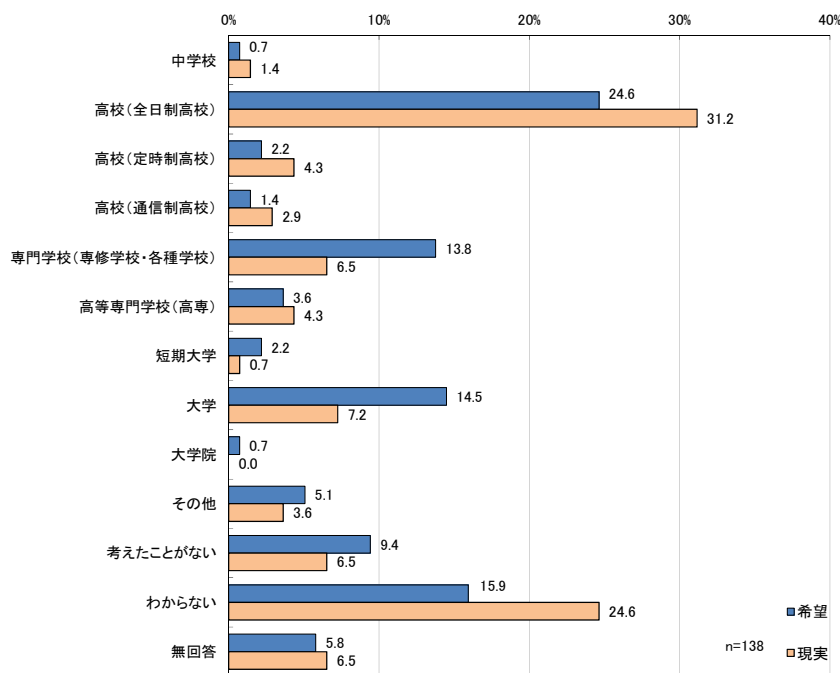
⑨希望する進路

「希望する学歴」についてたずねたところ、「高校（全日制高校）」が最も多く 24.6%、次いで「わからない」が 15.9%、「大学」が 14.5%となっている。他方で、「現実的な学歴」については、「高校（全日制高校）」が最も多く 31.2%、次いで「わからない」が 24.6%、「大学」が 7.2%となっている（図表 3-9-1）。これらについて児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、「希望する学歴」について、児童養護施設入所者のほうが「大学」の回答割合が低く、「わからない」の回答割合が高くなっていることがわかる（図表 2-13-1 参照）。

なお、学歴に関して、希望と現実が異なると考える理由としては、「自分の学力から考えて」が 39.6%、「家に経済的な余裕がないから」が 35.4%、「できるだけ早く働く必要があるから」が 27.1%となっている（図表 3-9-2）。児童養護施設入所者以外の中学生・高校生と比較すると、「できるだけ早く働く必要があるから」について、児童養護施設入所者のほうが回答割合が高くなっていることがわかる（図表 2-13-2 参照）。

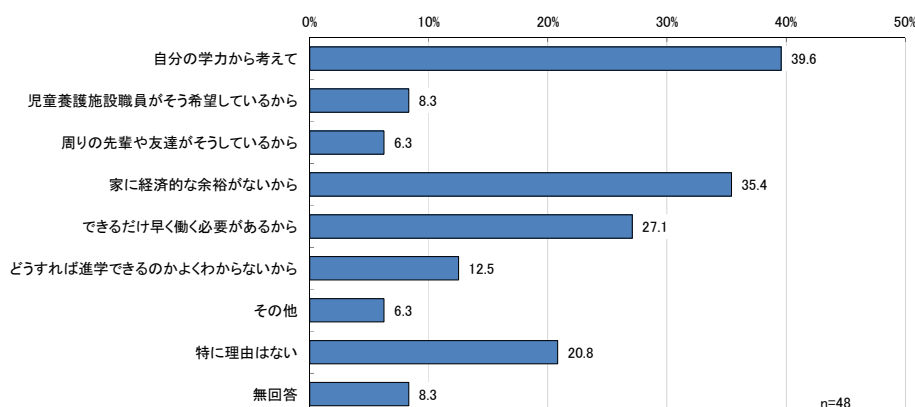
- 設問** 希望としては、将来どの学校まで行きたいと思いますか（問 12）
 現実としては、将来どの学校まで行くことになると思いますか（問 13）

図表 3-9-1 希望する学歴、現実として考える学歴



- 設問** 希望と現実が異なると考えるのはなぜですか（問 14・複数回答）

図表 3-9-2 希望と現実が異なると考える理由



⑩将来展望意識

将来に対する意識として、「自分の将来について明るい希望を持っている」かについてたずねたところ、「持っている」「どちらかというを持っている」の肯定的な回答が 55.8%、「どちらかというを持っていない」「持っていない」という否定的な回答が 39.2%となっている（図表 3-10-1）。

同様に、「将来のためにも、今がんばりたいと思う」かについては、「そう思う」「どちらかというそう思う」という肯定的な回答は 83.3%、「どちらかというそう思わない」「そう思わない」という否定的な回答が 13.1%となっている（図表 3-10-2）。また、「将来、一生懸命働きたい」かについては、「働きたい」「どちらかという働きたい」と肯定的な回答をした割合は 92.0%となっている（図表 3-10-3）。

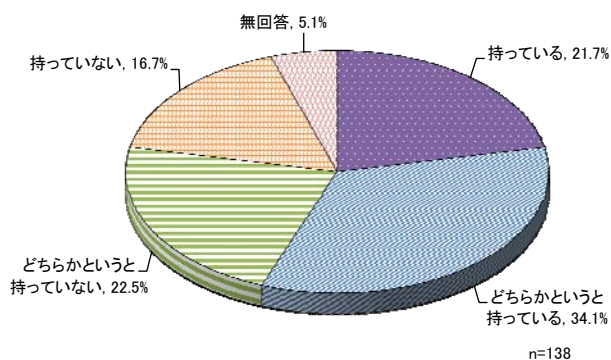
設問 あなたが普段考えていることについて、(ア)～(カ)について教えてください。

(エ) 自分の将来について明るい希望を持っている（問 16（エ））

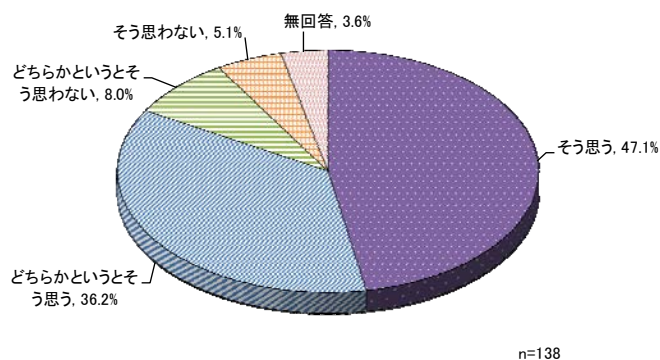
(オ) 将来のためにも、今がんばりたいと思う（問 16（オ））

(カ) 将来、一生懸命働きたい（問 16（カ））

図表 3-10-1 「明るい希望を持っている」



図表 3-10-2 「今がんばりたいと思う」



図表 3-10-3 「将来、一生懸命働きたい」

